82-102

# 墺國軍隊教則目次


一般ノ原則
輔重兵ノ部
總則
第一章　通則
第二章　教育計畫
第一部　下士及兵卒教育
第三章　通則
第四章　兵卒教育所
第五章　下士教育所
第六章　精神教育
第七章　術科
第八章　工兵作業
第九章　會計書記教育所
第十章　蹄鐵教育所
第二部　下士ノ補充


[illegible]

第十一章　下士養成所
第三部　一年志願兵教育
第十二章　目的
第十三章　學期
第十四章　教育所
第十五章　教官
第十六章　指揮官
第十七章　處置
第十八章　前期教育
第十九章　中期教育
第二十章　五月下旬ノ會議
第二十一章　後期教育
第二十二章　復習
第二十三章　教育所長ノ報告
第二十四章　豫備將校試驗
第二十五章　試驗成績調査
第二十六章　資格ノ決定
第二十七章　現役下士ノ豫備將校試驗
第二十八章　落第及試驗ヲ受ケザル一年志願兵
第二十九章　試驗延期
第三十章　再修學
第三十一章　再修學ノ試驗
第三十二章　豫備士官ヨリ現役ヘ轉職
第四部　將校及士官候補生教育
第三十三章　目的、科目
第三十四章　戰術實施
第三十五章　講義
第三十六章　對策
第三十七章　馬術
第三十八章　乘馬學校ヘ分遣
第三十九章　擊劍及射撃
第四十章　經理ニ關スル教育
第四十一章　他兵科糧食委員ノ教育
第五部　他兵科下士兵卒ノ輜重兵勤務教育

二一　二五
二二　二五
二三　二六
二四　二六
二五　二六
二六　二七
二七　二七
二八　二八
二九　二九
三〇　三〇
三一　三一
三二　三四
三三　三五
三四　三七
三五　三七
三六　三七
三七　三八
三八　三八
三九　三八
四三　三九
五〇　四〇
五一　四一
五二　四一
五三　四二
五五　四三

第四十二章　目的　五五
第四十三章　分遣ノ規定　五五
第四十四章　分遣者ノ選定及區分　五六
第四十五章　教科ノ區別及在學期　五七
第四十六章　教育規定　五七
第四十七章　指揮官及教官　五八
第四十八章　教授用材料　五八
第四十九章　試驗　五八
第六部
第五十章　軍團長ノ報告　五八
附錄
第一　輜重兵一年志願兵教育科目表　五八
第二　輜重兵一年志願兵教育及勤務ニ關スル報告例　五八
第三　輜重兵一年志願兵ノ豫備士官試驗成績表　五八
第四　豫備士官任命ニ關スル瞭明規定　五八
第五　豫備士官試驗ニ及第セシ輜重兵一年志願兵及下士ノ及第名簿　五八
第六　輜重兵一年志願兵ニシテ豫備士官試驗ニ落第シ或ハ右試驗ヲ棄テタル者ノ考科表　五八
第七　輜重兵中少尉筆記問題成績表　五八

墺國軍隊教則目次終

# 墺國軍隊教則

## 一般ノ原則

第一　軍隊教育ハ軍人ノ階級ニ應シ其任務ヲ盡スニ必要ナル智識ヲ與ヘ判斷力ヲ振起シ各種ノ事項ニ其才力ヲ運用シ專心職務ニ執掌シ不意ノ事變ニ遭遇スルモ愼着ニ之ヲ處置スヘキ自信力ヲ養成スルニアリ

尙ホ此教育ニ於テハ德義心ヲ發達セシメ各人ノ品格ヲ高尙ニシ且一端事アルニ際シテハ喜ンテ身ヲ犧牲ニ供スヘキ精神ヲ養成スヘシ實ニ此精神ハ軍人ノ其職務ヲ盡スニ缺クヘカラサル重要ノ根元ナリ

帝王ニ忠節ヲ盡シ國家ヲ保護シ自己ノ兵科及自己ノ軍隊ヲ敬愛シ勇敢柔順ニシテ名譽ヲ尙ヒ同僚ニ友誼ヲ致スヘキ事ハ全力ヲ盡シテ絶ヘス兵卒ノ心裡ニ喚起シ之ヲ第二ノ天性タラシムル如ク教育スルコトヲ努ムヘシ

第二　軍隊指揮官ハ部下ヲ教育シ各階級ニ應シ盡スヘキ責任、義務ヲ知ラシメ之ヲ奬勵誘導スルノミナラス各人ノ智識、才能、學術等ノ程度ヲ識別シ最モ適當ノ者ヲ撰拔シテ特別教育班ノ教官ト爲シ其技能ニ適當シタル科目ヲ教授セシメ益々之ヲ奬勵シ喜ンテ熱心ニ教育ニ從事セシムルコトヲ勉ムヘシ

凡テ教官ヲ撰拔スルニハ其教授スヘキ學術ニ精通シ之ヲ研究スル嗜好心ヲ有スル者ヲ

ルヲ要ス且爲シ得レハ實戰ノ經驗アリ達辯ナル者ヲ善トス蓋シ達辯ニシテ實戰ノ經驗アル者ハ能ク戰爭ノ實況ヲ寫シ其勤務ヲ明瞭ニ學生ノ腦裡ニ刻スルヲ得ルヲ以テ敎育ノ目的ヲ達スルコト速カナルヘシ

此敎官ノ任務ハ普通勤務ノ外ナルヲ以テ之ヲ特別勤務トシテ其考科表ニ記入スヘシ

第三　下士敎育所ニ入學セシムヘキ者ハ熱心ニシテ敢爲ノ氣象ヲ有シ將來發達ノ望アルモノタルヲ要ス

第四　修學期ハ短少ナルヲ以テ主トシテ軍事上勤務ニ必要ナル程度ニ止メ規定ノ科目外ニ亘ルヲ許サス

凡テ學術共ニ單ニ戰爭ノ用ニ供スルヲ目的トシテ敎育スヘシ學生タル者モ亦此目的ヲ忘ルヘカラス

第五　前記ノ目的ヲ以テ完全ナル敎育ヲ施スコトヲ努ムヘシ故ニ敎官ハ敎育スヘキ科目ヲ深ク研究シ短簡明瞭ニ說明シ之ヲ實例ニ照ラシ學生ニ了解シ易カラシムルヲ要ス而シテ一科目ニ於テ敎授セシ事項ニシテ他ノ科目ニ應用シ得ヘキモノハ再ヒ他ノ科目ニ於テ敎授スルコトナク學生ヲシテ答解セシメ誤解アレハ之ヲ敎示シ漸次自得セシムル如キ方法ニ依ルヘシ

記臆セシムルコトハ必要ナリト雖モ字句ノ暗記ヲ爲サシメサルコトニ注意シ勉メテ理解セシムルコトヲ圖ルヘシ



敎授ハ實物ニ依ル能ハサレハ圖畫ニ依リ記臆了解ニ易カラシムヘシ例ヘハ冬期連日天候惡シキ時ニ際シ實地ニ於テ野外間題ヲ解說スル能ハサルトキハ地圖或ハ略圖ニ依リ或ハ黑板ヘ白墨ヲ以テ解說スル如キノ類ナリ

學科ハ適當ノ回數ニ分チ又劣等者ヲシテ一般ノ進步ニ隨伴シ得ヘキ爲メ之ヲ細別スルヲ可トス

學生ノ數夥多ナルカ或ハ優劣甚シキトキハ才能或ハ敎育ノ程度ニ依リ若干ノ敎育班ニ分チ敎育スルヲ要ス若シ少數ニシテ班別スル能ハサルトキハ自習監督者ヲシテ適當ノ補助ヲ爲サシムヘシ

第六　以上示セシ學科ト共ニ體育ニ注意シ漸次身體ヲ發達セシメ其筋力ヲ强壯ナラシメ以テ各作業ヲ容易ニ施行シ勤務ニ耐ヘ得ル如クスヘシ

第七　各級ノ指揮官ハ自ラ得タル最良ノ經驗ニ依リテ部下ノ精神敎育及體育ノ發達ヲ期シ之ヲシテ常ニ熱心ヲ以テ事ニ從ハシムルコトニ盡力スルヲ要ス然レトモ精神及身體ノ力ヲ耗盡セシメサルコトニ注意スヘシ

敎育ノ方法ハ常ニ適當ノ季節時間ニ注意シ或ハ室內或ハ室外ニ於テスルノミナラス尙ホ精神ヲ爽快ナラシムル爲メ各種ノ學科ヲ適宜ニ配賦シ倦怠ヲ生セシメサル如クシ健康ヲ保ツニ必要ナル方法ヲ執ルハ須要ナリトス

學科ノ敎授ハ學科專門ノ敎育所ト雖モ一日六時間ヲ超過スヘカラス且同一學科ヲ一時

間半以上連續スルヲ許サス

第八　授業中ハ之ヲ妨ケサルコトニ注意スヘシ故ニ授業時間中ハ特別ノ事ニアラサレハ教官學生共ニ之ヲ他ニ召喚シ或ハ他ノ講堂ニ移スヲ許サス

下士ノ教育ニ於テハ學科ノ種類ニ依リ擔任教官（士官、見習士官、士官候補生又ハ場合ニ依リテハ下士ヲ任用ス）ヲ定メ日々教官ヲ交換セシムヘカラス又特別ナル學科ハ豫メ研究シ置クヲ要スルヲ以テ此教官ハ永ク同一學科ノ教授ニ從事セシムルヲ可トス

部隊長ハ止ムヲ得サル事故アルニアラサレハ部下ノ一兵卒ト雖トモ教育ヲ放逸スルヲ許サス故ニ休暇歸省等ハ教育ノ時間ヲ減少セサル時ノミ之ヲ許スヘシ

衛戍地内ニ於ケル他出作業ハ午後ニ於テスルヲ良トス然レトモ多クノ時間ヲ要スル作業ハ此限ニアラス

第九　軍事裁判或ハ之ニ類スル勤務ノ爲メ各隊ヲ分遣セシムルハ一週中二日以内トス

又衛戍地ニアリテハ衛戍司令官ニ於テ各隊ノ教育及作業ニ使用スヘキ時間ヲ定メ之ヲ布達シ各隊長ハ之ニ依テ勤務及教育等ノ日課ヲ規定スヘシ

衛戍司令官ハ又練兵場及射撃場使用ノ日ヲ定メ各隊ニ告達シ以テ軍隊交互ノ混雜ヲ豫防スルヲ良トス殊ニ冬期ニ於テハ室外ニ於テ運動シ得ヘキ日數少ナキヲ以テ此注意ヲ要スルモノトス

休日ハ日曜日及宗教上規定ノ祭日トシ尚ホ左ノ日ヲ休日トス

一、十二月二十四日ヨリ一月二日マテ

二、「ヲスラルン」祭日（四月末ノ耶蘇祭）前ノ水曜日ヨリ「ヲスラルン」火曜日マテ

三、天長節

四、「ファシング」（精進）ノ日）終リノ二日及「アッセル」水曜日

右ノ日ハ一年志願兵教育ノ外ハ皆休業トス回々教徒ハ尚ホ金曜日及回々教祭日ニモ亦休暇スルコトヲ得

# 輜重兵ノ部

## 總則

### 第一章 通則

第一　輜重兵隊ノ教育及他兵種ノ部隊ヨリ輜重兵勤務修業ノ爲メ分遣セラレタル下士兵卒ノ教育科目ハ秩序整然學理ニ適合スル如ク計畫スルヲ要ス

### 第二章 教育計畫

第二　聯隊長ハ其聯隊全部ノ教育ヲ統轄シ之ヲ完全ニ進歩セシムル責任ヲ有ス又大隊長（師團輜重兵隊長）ハ其大隊ノ教育ニ就テ聯隊長ニ對シ責任ヲ負フ故ニ各科目ハ聯隊長ノ方針ニ一致スル如ク最良ノ方法ヲ撰定シ齊一ニ進歩セシムルヲ要ス而シテ大隊長ハ季節及情況ヲ顧慮シ教育豫定ヲナシ聯隊長ニ呈シ其認可ヲ得テ所轄砲兵旅團長ニ進達スヘシ又此豫定ヲ改正シタルトキハ直ニ該旅團長ニ報告スヘシ

此豫定ハ全隊ヲシテ同一ノ日課及同一ノ作業ヲ齊一ニ進歩セシムル如クスヘシト雖モ小部隊ノ教育ニ關スル時間割ハ節圍ヲ廣ク規定スヘシ又大衛戍地ニ在テハ一般ノ原則第八ノ衛戍司令官ノ命令並ニ交代、命令交付、歸營等ノ規定時間ヲ顧慮スルヲ要ス

將校ノ教育豫定ハ小部隊教育ニ支障ヲ生セサル如ク注意スヘシ

下士教育所ノ教育豫定ハ其所長之ヲ作リ當該大隊長ニ呈シ大隊長ハ之ニ意見ヲ附シ聯隊長ニ呈シ其認可ヲ得テ所轄砲兵旅團長ニ進達スヘシ

第三　師團司令部所在地外ニ分屯スル軍隊ノ教育豫定ハ其地ノ情況ヲ酌量シ尚ホ其指揮官ヲシテ適宜ノ處置ヲ爲サシムル如ク餘地ヲ存スルコトニ注意スヘシ

### 第一部 下士及兵卒教育

#### 第三章 通則

第四　毎年十月新兵教育ヲ始ムル時ヨリ六月末ニ至ルマテヲ輜重兵中隊教育ノ時期トス大隊長ハ數個中隊ノ中隊教育ヲ期限内ニ完成スヘキ責任ヲ有ス

第五　一般教育ノ外尚ホ左ノ教育所アリ

一、兵卒教育所　此教育所ハ新兵教育ヲ終リタル兵卒ヲ更ニ進ンテ教育シ職務ノ執行ヲ確實ナラシムル爲メニ設クルモノトス

二、下士教育所　下士ヲ教育シ其知識ヲ增進シ實際力ニ富マシメ獨立シテ小隊長又ハ曹長ノ職務ヲ執ルコトヲ得ル如ク養成スルニアリ

三、會計書紀及蹄鐵教育所並下士養成所　別ニ記スル所アルヲ以テ之ヲ省畧ス

第六　遠隔セル衛戍地ニ屯在セル輜重兵中隊ハ下士及兵卒教育所ヲ合併スルコトヲ得

又地方ノ情況ニ依リ兵卒教育所ト他ノ教育所ト合併スルモ四十名以下ナルトキハ之ヲ一級ニ編成スルコトヲ得

師團輜重兵隊長（大隊長）ハ下士及兵卒教育所ノ規則ヲ定メ且一名ノ中隊長ヲシテ其所長ヲ兼任セシメ教育ノ事ヲ掌ラシメ又有爲ノ將校ヲ之ニ附シ一學科或ハ數學科ヲ擔任セシムヘシ而シテ何レノ科目ト雖トモ皆實地ノ作業ニ密接セシムルコトニ注意スヘシ

第七　補充隊各廠幹部及山嶺輜重兵中隊幹部ノ下士兵卒ニハ輜重兵中隊ノ學術科ノ教育ヲ爲スヘシ

第八　教育所ハ通常十二月一日ヲ以テ開始シ此開始前ニ於テ教育ヲ命セラレシ中隊長ハ故參小隊長ノ中ヨリ助教又ハ温習官ヲ選拔シ其擔任學科ニ就テ準備ヲ爲サシムヘシ

第九　下士及兵卒教育所ノ閉鎖期ハ一定ノ規定ナシト雖モ中隊教育期末即チ六月下旬ヲ通例トス

第一〇　冬期中ハ殊ニ學理ヲ教授シ好季節ニ於テ室外作業ヲ行フヲ常トス

第一一　下士及兵卒教育所ニ於テハ學理上ノ試驗ヲ行ハス教育ヲ終レハ各種ノ學科ニ於ケル成蹟ヲ報告スルニ止ム此成蹟ハ能ク意義ヲ理解セシムルコトヲ努メ皮相上又ハ字句ノ暗記ヲ戒ムヘシ

第一二　教育ノ責任ヲ有スル中隊長ハ其教育方法ニ就テ制限ヲ受ケサル如ク努ムヘシ而シテ教育豫定ハ規定ノ範圍内ニ於テ適當ニ科目及時間ヲ定ムヘシ

第一三　下士兵卒教育所長ハ課程表ヲ製シ之ニ各學科ノ目的、方法ヲ精密ニ記載シ之ヲ標準トシテ教育ヲ施スヘシ然ルトキハ豫定ノ期限内ニ教育ヲ完成シ各種ノ教育科目



ヲ平等完全ニ授ケ得ル便宜ヲ得ヘシ

此課程表ハ確定不動ノモノト見做シ難シト雖モ教育ノ進歩ヲ支障セサル補助手段タルヘキハ明ナリ

第一四　師團輜重兵隊長ハ殊ニ下士兵卒教育所ヲ監督シ其進歩ヲ催カシ諸規則ノ履行ヲ嚴格齊一ナラシムルコトニ注意シ必要ニ應シ適當ノ指揮ヲ爲シ時宜ニ依リテハ自ラ干渉スヘシ然レトモ漫ニ細事ニ容喙シ所長ノ獨立行爲ヲ妨クルコトナク其理解力ヲ判斷シ其處置ヲ講評スルニハ正當ノ事理ニ精通シタル觀察ニ依ラサルヘカラス而シテ之ニ干渉スルノ時機及方法ハ熟考スルヲ要ス

師團輜重兵隊長ノ駐在セサル地ニシテ數個中隊アルトキハ故參中隊長ニ隊長代理ノ權ヲ與フヘシ

第一五　各教育所ノ教育豫定ハ全國同一ナル能ハス或ハ其地方ノ情況ニ因リ或ハ智識ノ程度ニ因リ或ハ教官ニ因リ一定シ難キヲ以テ所長ヲシテ適當ノ規定ヲ爲サシムルヲ要ス

第一六　教授ヲ爲スニ方リ大ニ腦力ヲ費スヘキ暗記ハ務メテ之ヲ避クルヲ緊要トス凡テ學科ハ其要領ヲ會得シ其意義ヲ理解セシムルニアリ此目的ヲ達センニハ實物教授ヲ主トシ能ク學理ト實際ト互ニ相提携セシムルヲ良トス故ニ單ニ理論上ヨリ教授スルコトハ實際上又ハ圖畫ニ依テ證明スルコト能ハサルモノニ限ルモノトス

第一七　冬季ニ於テ室外作業ヲ教授スルコト能ハサル場合ニハ唯作業地方ヲ指示スルニ止メ實地教授ヲ爲シ得ヘキ時ヲ待ツヘシ

此實地教授ニ於テハ配置及宿營ヲ實際ニ於ケル如ク顧慮シ學理ノ研究ニ誤想ヲ生セサラシムルコトニ注意スヘシ此教授モ又師團輜重兵隊長ニ於テ規定シ原則ニ基キ各教育所ノ授業ヲ齊一平等ニスヘシ

第一八　術科及學科ノ教育ハ必要ナリト雖トモ特ニ精神教育ハ緊要ナリトス故ニ將校タルモノハ居常兵卒ノ師表タルコトヲ努メ部下ヲシテ嚴格ナル軍紀ヲ守ラシメ無限ノ服從ヲ教ヘ名譽ヲ尚フ純正ナル軍人精神ヲ養成シ勤務ニアルト否トヲ問ハス其行爲ヲ高尚ニシ品格ヲ保タシムヘシ

第一九　各教育所ニ於テハ名簿錄ヲ備ヘ日々實施セル科目及學生ノ勤怠ヲ記入ス若シ缺席シタルトキハ其原因ヲ記スヘシ而シテ教育ヲ終ルカ又ハ事故退學ノトキハ其名簿ノ終リニ短簡ニ成蹟品行性質ヲ記入シ撰拔及考科ノ材料タル如クスヘシ

此名簿ハ實施セシ情況判斷、將來ノ教育豫定等ニ關シ師團輜重兵隊長ノ參考トシテ缺クヘカラサルモノトス

第二〇　學科ノ教授ハ天候又ハ學科ノ種類ニ依リ室内室外又ハ厩中ニ於テ爲スヘシ學生ハ科目ニ適當セル服裝ヲ爲スヘシ但室内ニ在テハ帽ヲ戴クヲ許サス

## 第四章　兵卒教育所

第二一　兵卒教育所ハ下士養成所及特別教育所ニ入ラサル輜重兵卒ヲ教育スル所トス

第二二　普通科目ハ小隊長ヲシテ擔任セシメ勤務章程ハ士官、見習士官、候補生或ハ適當ノ下士ヲシテ學生ノ國語ヲ以テ教授セシムヘシ然レトモ命令、兵語及輜重兵卒ニ必要ナル名稱ハ獨逸語ヲ以テ教習セシムヘシ

第二三　教育科目ハ左ノ如シ

勤務章程

一、下級者特ニ兵卒ノ守ルヘキ普通ノ職責

二、輜重兵卒及從卒ノ身上ニ關スル規則

三、刑法

四、日常定期ノ勤務及特別勤務

五、各個ノ禮式

六、行軍勤務、行軍軍紀、行軍中ノ動作、處置

七、宿營及戰鬪中ノ動作、處置

八、鐵道、船舶ノ運輸ニ關スル動作、處置

特ニ重要ナルハ命令傳達並ニ報告ヲ獨逸語ヲ以テ爲スヘキ演習ナリトス

參考書　埃國陸軍勤務章程第一、第二、第三部及輜重兵操典

操典

一、號令、號音、軍刀ヲ以テスル記號

參考書　輜重兵操典

馬學及輜重

一、馬匹飼養救急法、行軍戰鬪ニ際シ馬匹ノ能力ヲ使用スル方法

二、鍊鐵、裝蹄

三、裝鞍、裝勒、馬裝法、繫駕

四、梱包、積載

五、車輛學特ニ構造上重要部ノ名稱

六、輜重材料ノ取扱法

參考書　軍用馬匹ニ關スル規則、野砲及山砲繫駕法、輜重材料取扱法

兵器學

一、工兵用刀、騎兵用刀及拳銃ノ操法、分解、結合、手入保存法

二、千八百六十七年同七十七年式「ウェルンデル」騎銃ノ操法、分解、結合、手入保存法、射撃豫行演習、射撃（輜重兵隊ニ此銃ノ存スル間特別科目ハ之ヲ教エルノ必要アリ）

一、普通徴兵ニ關スル規則、歸休兵及豫備兵ニ關スル規則、輜重兵ニ關スル規則、



編制、救急及衛生法

參考書　輜重兵編制法、徴兵義務竟程、衛生學

**第二四**　半小隊長ハ其部下ノ兵卒ニ兵舍並厩舍ノ規則整頓、被服兵器ノ取扱、武裝、戰時徴發、武官ノ階級、上官ノ官姓名ヲ教ユヘシ

**第二五**　輜重兵中隊喇叭手モ亦兵卒教育所ノ教育ヲ受クヘシ但其專門ノ學術ハ師團輜重兵喇叭手ヨリ教育ヲ受クルモノトス

師團輜重兵喇叭手（喇叭教官）ヲ補充スルニハ輜重兵中隊喇叭手ヨリス即チ毎年冬期軍團司令部ノ命令ニ依リ師團下ノ輜重兵中隊喇叭手ノ中ヨリ一名ヲ撰抜シ必要ノ日數間歩兵聯隊音樂長ニ屬シ其教育ヲ受ケシメ採用ス

**第二六**　從卒ト爲スヘキ者ニハ普通科目ノ外尚ホ乘馬ノ取扱ヲ附加ス

## 第五章　下士教育所

**第二七**　下士教育所ハ中隊長ノ撰抜セル活潑敢爲ニシテ能力アリ且熱心勉勵ノ下士ヲ教育シ併セテ師團司令部所在地ノ輜重兵中隊下士ヲ教育スル所トス

師團輜重兵隊長ハ下士教育所ヲ編組シ所長タルヘキ輜重兵大尉及必要ノ教官ヲ任命シ其教育スヘキ科目ヲ指定シ其進歩ヲ圖ルヘシ

師團輜重兵喇叭手モ亦此教育所ニ入リ必要ノ教育ヲ受クヘシ

**第二八**　授業ニハ勉メテ獨逸語ヲ用ユヘシ其他ニアリテハ學生ノ國語ヲ使用スルモ妨

ケナシト雖モ學生ニハ獨逸語ヲ軍隊用語ト爲シ命令及報告等ヲ明瞭ニ發唱シ得ルニ至ルマテ學習セシムルヲ要ス

## 第二九　教育科目ハ左ノ如シ

勤務章程
一、兵卒教育所ニ規定セラレタル章程ノ初ヨリ曹長ニ至ル迄ノ勤務並ニ下士ノ盡スヘキ監視勤務
二、行軍、戰鬪、宿營中輜重兵下士ノ勤務
三、口頭及筆記ノ報告演習

操典
一、徒歩及乘馬教練ノ諸規則
二、平時定員ニ於ケル中隊繋駕教練ノ原則
三、操典附錄全部
四、輜重兵中隊ノ編成及運動
五、一個小隊ヲ獨立ニテ確實ニ指揮シ得ルマテノ教練
凡テ部隊中ノ下士勤務ハ特別ニ注意シテ教授スルヲ要ス

馬學及輜重
一、兵卒教育所ノ規定ヲ下士ノ程度ニ擴張スヘシ



二、馬匹ノ外貌及單簡ナル治療法
三、車輛學殊ニ構造、樞要部名稱、制式、塗油、保存、積載力、回轉角度
四、難路通過ニ際シ處置及注意

兵器學
一、兵卒教育所ノ規定ヲ下士ノ程度ニ擴張ス
二、工兵及騎兵用刀ノ説明

參考書　千八百八十二年ノ騎兵射撃教範、砲兵及輜重兵兵器學、砲兵輜重兵及獵兵ノ拳銃射撃教範、千八百七十九年ノ歩兵及獵兵射撃教範

軍制學
一、軍隊普通ノ編制、戰術上ノ區分、輜重兵編制ニ關スル精細ノ説明

## 第三〇　下士教育ヲ完全ナラシメン爲メ未タ素養アラサル者ニハ左ノ科目ヲ豫習セシムルヲ要ス

一、各種ノ習字、讀方、算術四則、筆記報告、計算及記帳
二、鉛筆ニテ手簿ニ記載スルコト是レ戰時ハペンヲ使用スルコト能ハサル場合多キ故ナリ
三、地圖ノ見解及地圖ニ依リ方位ヲ定ムルコト此科目ハ素力ヲ酌酌シ實地ニ就キ教授スルヲ良トス

第三一一　勤務ヲ完全ニ執行シ得ル技能アル下士ハ教育所ニ入ラシムルヲ要セス之ヲ教官又ハ温習官ト爲シ或ハ適當ノ地位ニ使用シ實地勤務ヲ執ラシムヘシ

## 第六章　精神教育

第三一二　讀法ハ通常毎月一回朗讀及講義ヲ爲シ中隊長以下悉ク列席ス

中隊長ハ通常獨逸語ヲ了解スル者ヲ集メテ朗讀及講義ヲ爲シ他ノ國語ヲ使用スル者ハ其國語ヲ能クスル士官又ハ下士ヲシテ朗讀及講義ヲ爲サシム

此時ヲ利用シテ近來起リシ事項ニ依テ名譽ヲ稱シ處罰ヲ訓戒シ競テ軍紀ヲ嚴格ニ赴カシムル如クス

尚ホ講話者ハ勇敢ナル擧動、尊重スヘキ志操ヲ龜鑑トシテ實行ニ努ムヘキコトヲ靜聽セシメ又勉メテ自個ノ中隊ニ起リシ美談ハ殘スコトナク說明賞揚シ榮譽ヲ競ハシメ堅忍不撓ニシテ忠節ヲ重スル軍人精神ヲ喚起スルコトニ全力ヲ盡クスヘシ

## 第七章　術科

第三一三　學術ヲ併進セシムヘキコト並ニ實物教授ノ必要ナルコトハ既ニ開始ノ所ナリ故ニ冬季ト雖トモ天候ノ許ス限リハ徒歩教練、乘馬馭法、兵器ノ操法、射撃、輜重材料ノ取扱及行軍等ヲ施行シ常ニ戰爭準備ヲ爲スヘシ

第三一四　凡テ術科ヲ施行スルニハ常ニ操典、教範、勤務章程等ノ精神ヲ嚴格ニ實行スルヲ緊要トス



第三一五　徒歩教練ニ在テハ軍人ノ姿勢動作ニ注意スヘシ而シテ此教練ニハ分隊又ハ技術者ヲモ出場セシムルヲ可トス

第三一六　下士兵卒ノ乘馬教練及馭法教練ハ常ニ士官ヲ以テ教官トスヘシ

乘馬學校ニテハ馬術ノ外尚ホ輓馬教練ヲ教ユヘシ

數個ノ輜重兵中隊同一衛戍地ニ在ルトキハ下士ノ馬術ハ各中隊ノ者ヲ集メ一班乃至數班ニ編組シ教授スルコトヲ得其教官ハ士官ヲ以テ充ツヘシ而シテ下士ニハ初歩ノ技術ヲ教授セサルモ妨ケナシ又時々場外作業ヲ行ヒ各種ノ地形ニ就テ乘御法ヲ學ハシムヘシ

馭法教練ニ於テハ新兵二頭又ハ四頭繫駕ノ空車ヲ使馭シ得ルニ至レハ荷物ヲ滿載シテ演習スヘシ

第三一七　射撃ハ此術ニ長セル士官ヲ教官トシ懇切ニ教授セシムヘシ

第三一八　行軍演習ハ車輛ニ定量ヲ積載シ急速ナラサル歩度ヲ以テ旋回、難路通過等ヲ施行スヘシ

此演習ハ十二月及一月ニ於テハ中隊毎ニ施行シ充分ノ教育ヲ施シ二月以後ニ至レハ數個ノ中隊ヲ連合シ長大ナル縱列ヲ編成シテ演習シ殊ニ難路及障碍通過ハ最モ注意スヘシ又此縱列ハ定員ヲ以テ編成スヘシ若シ定員外ノ士官下士ヲ隨行セシムルトキハ縱列中ニ入レシメスシテ捜索其他ノ任務ニ服セシムヘシ

休憩ノ時ニ於テ縱列中ノ職員ヲ彼是交換シテ汎ク實地勤務ヲ習ハシムヘシ

第三九　前諸演習ノ外尚ホ中隊ハ一週ニ一回馬匹檢査ヲ行ヒ中隊長以下悉皆出場ス此檢査ハ啻ニ獸醫ノ診斷ニ止マラス平時馬匹ノ取扱、調教、裝蹄等ヲ檢スヘシ

第四〇　柔軟體操ハ日々午前各兵卒ヲ六乃至八名ノ班ニ分チ下士ヲ教官トシテ施行ス其場所ハ天候ニ依リ室內又ハ中庭トス其時間ハ十分乃至十五分ヲ以テ足レリトス

第四一　其他操典ニ規定セル體操及下士ノ擊劍ハ體操場又ハ適當ノ場所ニ於テ施行シ其時間ハ軍隊勤務ニ支障ナキ時ヲ撰ムヘシ

此體操及擊劍ハ其部隊長ノ指揮ニ從ヒ教官タル士官(下士)ノ監督ヲ以テ午後少クモ三時間施行スヘシ

中隊長ハ此技術ニ熟達セル教官(士官)及一二名ノ下士ヲ養成シ置クヲ要ス

體操及擊劍ニ必要ナル物品ハ常ニ軍隊ニ保存スヘシ

體操器械ハ衛戍地ニ建設シ其地ノ衛戍司令官ニ於テ保管スヘキモノトス

體操器械ノ數及配置ハ衛戍兵ノ多寡及地方ノ情況ニ從テ之ヲ定ム

第四二　遊泳ハ之ヲ行フニ便宜ナル衛戍地ニ屯在スル軍隊ノミ施行スヘシ然レトモ之カ爲メニ本科ノ教育ヲ妨ケサルヲ要ス

## 第八章　工兵作業

第四三　工兵作業ハ輜重兵ニアリテハ道路橋梁ノ補修及野戰ニ必要ナル野營作業ヲ爲シ得レハ足レリトス

## 第九章　會計書記教育所

第四四　輜重兵各部隊ニ於テハ會計書記ヲ養成スヘシ

第四五　會計書記ノ補充ハ各部隊ニ於テ爲ス故ニ輜重兵中隊及各部ニ於テ書記ノ欠員アルカ又ハ欠員ヲ生セントスルトキハ下士或ハ兵卒中ニテ品行方正、性質正直ニシテ讀書算術及習字ヲ能クスル者ヲ撰定シテ書記教育所ニ入學セシム

又戰時ハ多數ノ會計書記ヲ要スルヲ以テ之ヲ顧慮シ平時所要外ノ者ヲ教育所ニ入學セシメ豫備書記ヲ養成シ置クヲ要ス

第四六　教育所ニ於テハ會計經理ニ必要ナル規定ヲ教ヘ且其職務ヲ獨立シテ執行シ得ル如ク其業務ヲ實地ニ就テ修習セシムヘシ

第四七　會計書記教育所ハ每年師團輜重兵隊本部所在地ニ開設シ師團輜重兵隊長其規則ヲ定メ其教育ヲ監督スヘシ

第四八　每年師團配下ノ各輜重兵中隊ヨリ一名ノ下士或ハ兵卒ヲ撰拔シテ學生トシテ入學セシム

第四九　教育所ハ十二月一日ニ開キ教育ヲ終レハ直ニ之ヲ閉ツ而シテ教育期ハ四ケ月以上ニ亘ルヲ許サス

第五〇　教育所ノ指揮ハ糧食委員ノ士官ヲシテ擔任セシメ計算ニ關スル教授ハ師團輜

重兵隊附軍吏ヲシテ爲サシム尚ホ必要アレハ下士ヲシテ補助セシムルコトヲ得

第五一　學生ニハ文法、作文、習字、算術ヲ授ケ殊ニ戰時ノ經理計算ノ事ヲ學ハシメ既ニ執務ノ技量ヲ備フレハ實地勤務ヲ執ラシメ之ニ熟達セシムヘシ

第五二　學生ノ給養及宿舍ハ凡テ教育所所在地ノ軍隊ヨリ供給セシム

教場ハ兵舍ヲ以テ充ツヘシ

机腰掛ノ類ハ兵舍備附品ヲ使用シ尚ホ要スレハ監督部ノ貯藏品ヲ使用スルコトヲ得

教授上ノ要品及筆墨等ハ經常費ヨリ支辨スヘシ

燈火及薪材ハ消耗品費ヨリ支出スヘシ

第五三　教育ヲ終レハ各人ノ成績ヲ師團輜重兵隊長ニ報告シ書記ニ任用シ得ルヤ否ヲ證明スヘシ

中隊ニ於テハ卒業者ヲ會計官ニ屬セシメ其事務ノ熟達ヲ圖リ或ハ中隊經理ノ事務ニ關與セシムルヲ良トス

## 第十章　蹄鐵教育所

第五四　蹄鐵教育所ハ現役輜重兵中鍛工術ヲ脩メタル者ニ蹄鐵術ヲ教育スル所トス

學期並ニ教育ニ關スルコトハ軍隊蹄鐵教育所規則ニ依ルヘシ

此教育所ニ於テハ「ウヰン」陸軍獸醫學校及「ウンガルン」王國「ブダペスト」獸醫學校ニ入リ尚ホ二ケ年蹄鐵學ヲ研究セント欲スル者ニ豫備科ヲ教授ス

教授ハ輜重兵隊附獸醫ヲシテ擔任セシム

## 第二部　下士ノ補充

## 第十一章　下士養成所

第五五　下士養成所ハ輜重兵卒中下士ト爲スヘキ望アルモノヲ入學セシメ下士ニ必要ノ學術ヲ教ユル所ニシテ輜重兵聯隊長ノ統轄ニ屬ス

第五六　輜重兵聯隊長及師團輜重兵隊長ハ其聯隊又ハ部下ノ中隊ニ下士ノ缺員ヲ生セントスルトキハ之ヲ補缺スル爲メ兵卒ヲ撰拔シテ下士養成所ニ入學セシム

毎年各輜重兵中隊ニ於テハ少クモ二名補充廠幹部ニ於テハ一名ヲ入學セシムルヲ規則トス

第五七　一師團ニ於テ十二名ノ學生ヲ出ストキハ師團輜重兵隊長ハ養成所ヲ編組スルコトヲ得若シ十二名ニ達セサレハ聯隊長ノ命令ニ依リ他ノ師團ト合併スヘシ

下士養成所ハ十二月一日ヨリ四月盡日迄ヲ期限トス

第五八　中隊ニ於テハ下士養成所ニ入學スヘキ者ノ名簿ヘ補缺スヘキ下士ノ員數表ヲ添ヘ毎年十月中旬師團輜重兵隊本部ヘ呈出ス此名簿ハ聯隊本部ヘ轉送スルモノトス

聯隊本部ハ此名簿ニ依リテ下士養成所ノ數ヲ決定シ其二個以上ノ師團候補者ヲ合シ養成所ヲ設置スヘキ時ハ其規則ヲ定ム

第五九　學生ハ性質善良ニシテ職務ニ勉勵シ品行方正ナルヲ要シ且理解力及才能共ニ

下士ニ適當ニシテ尚ホ獨逸語ヲ以テスルル講義ヲ了解スル語學力ヲ備フル者ヲ撰定スヘシ

第六〇　左ニ掲クルモノハ退學セシムヘシ

一、才能乏シク下士タルニ適セスト認メタル者

二、疾病ニテ卒業ノ見込ナキ者

三、品行不正ニシテ軍紀ヲ亂ル者

第一項ノ者ハ入學日ヨリ三乃至四週日以内ニ退學ヲ命スヘシ是此日數中ニハ明ラカニ認定シ得ルヲ以テナリ此場合ニ於テハ學術ニ追及ノ望アルトキハ他ノ者ヲ撰抜補充スルコトヲ得

第六一　師團轄重兵隊長ハ下士養成所ノ教育ヲ監督指導シ其進歩ヲ圖ルヘキ責任ヲ有ス

第六二　聯隊本部所在地ニ設置スヘキ下士養成所長ハ補充廠幹部ノ古參中尉ヲ以テ之ニ充ツヘシ

其他ノ下士養成所長ハ中隊長ヲシテ兼任セシム

養成所長ハ教育ノ主任者ナルヲ以テ學識ヲ備ヘ不撓ノ忍耐力ヲ有スル者ナルヲ要ス

所長ハ教官及學生ニ對シ嚴ニ指揮官タルノミナラス又教官タリ故ニ自ラ模範ヲ示シ之ヲ指導セサルヘカラス

重要ナル科目ハ所長自ラ講授スルヲ良トス

所長ハ中隊長ト同等ノ所罰權ヲ有ス

教授ノ補助トシテ一名ノ士官及見習士官ヲ加ヘ尚ホ讀書習字算術獨逸語等ノ温習及監督ノ爲メニ下士ノ助教ヲ撰定スルニハ學生ノ模範タルヘキ資格ヲ有スル者ナルヲ要ス

第六三　學生ノ教育ハ卒業ノ後チ下士ニ採用シ得ヘキ程度ナルヲ要ス

獨立シタ勤務ヲ執リ得ルコトニ注意ス

結果ヲ招クカ如キコトアルヘカラス

就學中ハ右ノ目的ヲ以テ他ノ勤務ハ勉メテ之ヲ避クヘシ

日課ノ規定ハ所長適宜ニ爲スヘシ

授業ハ獨逸語ヲ以テスヘシ然レトモ夥多ノ課目ヲ同時ニ教授シ却テ不

第六四　下士養成所ノ教育科目ハ左ノ如シ

勤務章程
操典
馬事及輜重
兵器學
軍制學
地圖ノ見解

下士教育所ノ程度

豫科學

獨逸語、習字、書取、讀方、算術

獨逸語ヲ了解セサル學生ト雖トモ卒業ノ後ハ此語ヲ使用シ得ルニ至ルヲ要ス

習字、讀方ハ各種ノ文ヲ讀ミ書キスルコトヲ得ルニ至ルヲ要ス

算術ハ四則ニ止ムヘシ

第六五　乘馬及馭法教練ニハ某輜重兵中隊ノ馬匹材料ヲ使用スヘシ此中隊ハ養成所開設中他ノ勤務ヲ免スヘシ

第六六　操典、教範、車輛學、馬學及乘馬ハ士官自ラ教授スヘシ讀書、習字、算術其他稍、簡易ナル科目ハ見習士官又ハ下士ニ擔任セシメ蹄鐵學ハ獸醫或ハ蹄鐵工ヲシテ教授セシムヘシ

讀法ノ朗讀、講話等ハ中隊ニ於ケルト異ナルコトナシ

實地教授及須要ナル科目ハ特別ニ注意ヲ要ス

體操ハ教官タルニ適スル如ク教ユヘシ

第六七　下士養成所ハ兵舍ヲ以テ之ニ充ツヘシ又覆馬場ノ使用ヲ許可スヘシ

机腰掛等ハ備附品ニテ不足ナレハ監督部ヘ請求スヘシ

教授要品點火等ハ軍隊經費中ヨリ支辨スヘシ

燒燼用薪炭ハ軍隊經費中ヨリ炊事用薪炭ハ消耗品費ヨリ仕拂フヘシ



擊劍用具、體操場ハ中隊ノモノヲ使用スヘシ

學生及監視員ノ給養ハ養成所ヲ開設セル輜重兵中隊ヨリ受クヘシ

第六八　卒業スレハ聯隊長又ハ師團輜重兵隊長ハ各人ノ成蹟ヲ各科目ニ依リ上、中、下、劣等ニ區別シ中隊長ニ通達ス輜重兵中隊長ハ卒業者中成蹟不良ノ者アレハ勉メテ短期内ニ補習セシムルヲ要ス

## 第二部　一年志願兵教育

### 第十二章　目的

第六九　一年志願兵教育ノ目的ハ兵役義務者中教育ノ素養充分ナル者ニ軍事教育ヲ施シ實用ニ足ルヘキ豫備士官ヲ養成スルニアリ

此目的ヲ達センニハ以下揭クル所ノ規定ヲ最モ嚴格ニ且注意ヲ加ヘテ施行スヘシ

### 第十三章　學期

第七〇　一年志願兵ノ教育ハ分テ三期トス

一、十月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル前期教育

二、十二月一日ヨリ四月三十日ニ至ル中期教育

三、五月一日ヨリ卒業期ニ至ル後期教育

第七一　一年志願兵ハ現役中ハ單ニ軍事教育ト軍事勤務ヲ學ハシム

## 第十四章　教育所

**第七二**　輜重兵一年志願兵ハ現役中一年志願兵教育所ニ集ム

輜重兵一個聯隊ノ一年志願兵ハ十名以上五十名以下トス

**第七三**　一年志願兵教育所ハ輜重兵聯隊本部所在地ニ設ケ所長タルヘキ大尉ノ中隊ニ屬ス

**第七四**　一年志願兵ハ輜重兵聯隊本部所在地ニ召集ス

遠隔ノ地ニアル輜重兵隊ノ爲メ必要アレハ一年志願兵教育所ニ關スル諸規則ハ陸軍省ニ於テ定ム

## 第十五章　教官

**第七五**　一年志願兵教育所長ハ中隊長ヲシテ兼任セシム而シテ其教育ニ關シテハ悉皆上級指揮官ノ指揮ヲ受クヘシ

**第七六**　所長ハ操典、戰術、野外勤務輜重兵教範ノ教官ヲ兼ヌルモノトス

**第七七**　經驗ニ富ミタル適當ノ中少尉若干名ヲ撰抜シテ教官ヲ命シ所長ヲ補佐セシム

聯隊長或ハ大隊長ハ所長及教官ヲ撰定スルニハ最モ愼重ニシテ綿密ナル注意ヲ加フヘシ

教官ハ管ニ專門ノ學科ニ精通スルノミナラス勤務ニ精勵シ且適當ノ技術ヲ備フルヲ要ス



馬學及蹄鐵學ハ獸醫ニ經理學ハ軍吏ヲシテ擔任セシメ又有爲ノ會計書記ヲ以テ助教トス、

**第七八**　所長ハ中隊長ノ職務ノ外他ノ職務ニ使用スヘカラス

志願兵中獨逸語ヲ了解セサルモノアル時ハ其邦語ヲ以テ教授スヘシ

志願兵多數ナルトキハ一名ノ中少尉ヲ撰ンテ所長ノ擔任ヲ補佐セシム然ルトキハ此士官モ亦他ノ職務ヲ兼ネシムルヲ許サス其他ノ教官ハ授業ヲ妨ケサレハ兼職セシムルコトヲ許ス

**第七九**　所長及教官ハ止ムヲ得サル事情アルニアラサレハ服務中變更スルヲ許サス

一年志願兵教育所ノ軍事勤務ハ中隊ニ於ケルト相等シ要スルニ嚴正ニ秩序ヲ保ツテ服務セシムルニアリ

## 第十六章　指揮官

**第八〇**　一年志願兵教育所ノ指揮ハ輜重兵聯隊長或ハ輜重兵大隊長（師團輜重兵隊長）之ヲ掌ル

此指揮官ハ一年志願兵ニ戰鬪教練及野外勤務ヲ教育スルノ責任ヲ有ス

志願兵教育ニ關スルコトハ聯隊長又ハ大隊長ヨリ所轄砲兵旅團長ニ報告スヘシ

## 第十七章　處置

**第八一**　一年志願兵ニシテ現役中徴兵規則ニ獨レタル失格者ハ所屬中隊ニ復歸セシメ

他ノ現役兵ト同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

一年志願兵現役中士官タルヘキ品格ヲ損スヘキ者ト認メタルトキハ大隊長、教育所長、中隊長ハ教官ノ會議ニ於テ審査シ其書類ヲ軍團長ニ進達シ軍團長ハ之ヲ調査シ志願兵ヲ免スヘキモノ及教育ヲ停止スヘキ者ト認メタルトキハ陸軍省ニ稟申ス

## 第十八章　前期教育

第八二　一年志願兵入隊スレハ第十五章ニ依テ定メラルタル所長教官等ハ直ニ前期新兵教育ニ着手ス

第八三　教練ハ輜重兵操典ノ規定ニ依リ進歩セシムヘシ其細則ノ規定ハ所長ニ委任ス

教練ニ必要ノ馬匹ハ十五頭迄ヲ限リ聯隊長ニ於テ許可スヘシ

緊急演習ニ必要ノ馬匹ハ教育所ノ屬スル輜重兵中隊ヨリ供給セシメ而シテ此中隊ハ他ノ勤務ヲ免スヘシ

第八四　一年志願兵ノ教育ハ普通教育ノ素養アルヲ以テ其理解力ヲ應用シ迅速ニ進歩セシメ前期教育ニ於テ既ニ一般軍人タル義務、讀法、輜重兵教範ノ概則ヲ了解シ輜重兵ノ編制及捆包積載等ヲ習得セシムルヲ要ス

## 第十九章　中期教育

第八四　中期ノ軍事教育ハ將來豫備士官タルヘキ要素ヲ養成スルニアリ

此教育期中ハ必要ナル注意ト適當ナル時間ヲ與ヘテ實地教育ヲ努ムヘシ

第八五　教育ハ豫定表ニ從ヒ學術併行ヲ主トシ假令天候季節ノ障碍ニ遭遇スルモ此主義ノ實行ヲ期スヘシ

第八六　志願兵中獨逸語ヲ了解セサルモノアレハ當初一ケ月間ハ其國語ニ依テ教授スヘシト雖モ漸次獨逸語ヲ教ヘ勤務ニ必要ナル程度ニ至ラシムルハ教官ノ責任ナリトス

第八七　志願兵ノ教育豫定ハ教育所長ノ考案ニ依リ輜重兵聯隊長（或ハ師團輜重兵隊長）之ヲ決定シ所轄砲兵旅團長ノ認可ヲ得テ實施ス

此教育豫定ヲ爲スニ中期ニ於テハ一日八時間日曜日及祭日ハ午前二時間トシ之ヲ適當ニ學術科ニ配當スヘシ

休日ハ十二月二十四、二十五、二十六日、一月一日及昇天祭ニ當ル日曜月曜兩日トス

第八八　所長ハ教育豫定ヲ嚴行スヘキ責任ヲ有ス故ニ教官以下凡テ其指揮ニ從フヘシ

## 第二十章　五月下旬ノ會議

第八九　五月下旬ニ至レハ所長及教官ハ會議ヲ開キ志願兵ノ成蹟ヲ調査シ輜重兵聯隊長ニ具申ス

志願兵中成蹟可良即チ諸勤務ヲ了解シ熱心勉勵一ノ批難ナク豫備將校試驗ニ優等ヲ以テ及第スヘキ見込アル者ハ聯隊長ヨリ名譽軍曹ノ稱號ヲ與フ

## 第二十一章　後期教育

第九〇　後期教育ノ目的ハ一年志願兵ヲシテ將來士官ト爲スニ必要ナル實地ノ學習ヲ

爲サシムルニアリ故ニ漸次下士及士官勤務ヲ學科ノ進歩ニ隨伴シテ確實ニ實施セシメ指揮官タルヘキ技量ヲ備ヘシムルヲ要ス

第九一　志願兵ハ教育所々屬ノ中隊附トシテ實地教育及勤務ヲ執ラシメ之ヲ明瞭確實ニ會得セシメ軍紀上必要ノ態度、兵卒ノ指揮及戰時ニ於ケル輜重兵士官ノ實地勤務ヲ修得セシム

第九二　其他戰時必要ナル經理ノ大要ヲ學ハシムルコトヽス

一　經理勤務ヲ實地教育スルニ當リ若シ之ヲ知ラサルトキハ輜重兵士官ノ戰時勤務ヲ滯ラスヘキ理由ヲ詳知セシムヘシ

第九三　志願兵ハ其現役ノ終リノ時期ニ於テ施行スル輜重兵演習ニハ必ス參與セシムヘシ

第九四　所長ハ後期ニ於テハ殊ニ各人ノ技量及才能品格等ニ注意スヘシ

## 第二十二章　復習

第九五　實地勤務ヲ教習スル間聯隊長ノ規定ニ從ヒ學理ヲ復習セシメ教育ヲ完成シ又野外演習ヲ行フ能ハサル天候ニ際シテハ輜重兵教範戰術ノ部ニ關スル學科ヲ教授スヘシ

## 第二十三章　教育所長ノ報告

第九六　後期教育ノ間所長ハ志願兵各人ノ能否ヲ觀察實驗シ卒業ノ時附錄第二ノ報告書ヲ調製シ順序ヲ經テ砲兵旅團長ニ呈スヘシ

此報告書ハ豫備將校試驗ニ當リ志願兵ノ士官ニ適否並ニ操典、勤務章程、馬學ノ席次ヲ定ムル基礎タルヲ以テ最モ確實ナルコトニ注意スヘシ

## 第二十四章　豫備將校試驗

第九七　豫備將校試驗ハ輜重兵演習ノ終リシ後ナ軍團長ノ命令ニ基キ九月砲兵旅團司令部ニ於テ施行ス但都合ニ依リ十月ニ變更スルコトヲ得

第九八　試驗委員ハ左ノ如シ

一、委員長　砲兵旅團長　一
二、委　員　師團輜重兵隊長　一
同　參謀將校　一
同　輜重兵大(中)尉　二
三、砲兵旅團司令部所在地ニ輜重兵聯隊アルトキハ其聯隊長モ亦委員トス
四、委員ハ砲兵旅團司令部ヨリ命ス但參謀將校ハ旅團司令部ヨリ軍團長ニ上申スヘシ

第九九　所長及教官ハ試驗ニ參與シ委員長ノ命ニ依リ問題ヲ撰定シ且一ケ年間ノ各人ノ成蹟ヲ報告スヘシ

第一〇〇　學科試驗ハ口頭筆記ノ二種トス

筆記試驗問題ハ文書式、會計經理勤務ノ内ヨリ撰定シ其一問題ノ答解ハ二時間以上ニ亘ルヲ許サス

答解ハ委員ノ監督ヲ受ケテ作爲スヘシ

委員ハ第百三第百四ノ規定ニ依リ答解ノ點數ヲ定メ第百五ノ規定ニ依リ成蹟表ニ記入スヘシ

第一〇一　左ノ科目ハ口頭答解トス

一、輜重兵教範
二、輜重兵裝備
三、戰時給養法
四、戰術及野外勤務
五、兵器及射撃學
六、軍制學
七、地形學及製圖學
八、技術上ノ教授

操典、勤務章程、馬學ノ成蹟ハ所長ノ報告ニ據ル若此報告中劣等者アルトキハ委員ニ於テ操典ハ術科ニテ勤務章程及馬學ハ學科上ノ試驗ヲ行フヘシ

第一〇二　學科ノ試驗ハ軍隊用語トシテハ猶逸語ヲ用ユヘシト雖モ勤務ニ差支ナキヲ度トスヘシ其他ハ「ウンガルン」王ノ配下「クロワチエン、スラボニエン」屬國語及「クロワチエン」語ヲ使用スルコトヲ許ス

第一〇三　邦語ヲ許サレタル志願兵ノ試驗ハ其語ヲ了解スル委員二名以上ニテ爲スヘシ

第一〇四　答解ハ左ノ標準ヲ以テ委員各個ニ評定スヘシ

一、最優等五點　學理ヲ了解シ停滯ナク且教官ノ補助ナク充分詳說シ得ル者
二、優等四點　學理ヲ了解シ教官ノ補助ナク答解シ得ル者
三、上三點　學理ノ大部ヲ知リ教官ノ些少ノ補助ヲ得テ答解シ得ル者
四、中二點　學理ノ大要ヲ知リ教官ノ適宜ノ補助ヲ以テ答解シ得ル者此種ニ屬スル者ハ先ツ授業ノ目的ヲ達シタルモノト認メ得ヘシ
五、下一點　學理ヲ解スルコト確實ナラス其答フルヘキ所皆缺點アリ且順序ヲ失スル者此種ニ屬スルモノハ授業ノ目的ヲ達セサル者トス
六、最下〇點　毫モ學理ヲ解セス全然答解シ能ハサル者

第一〇五　委員ハ日々試驗ヲ終レハ受驗者ヲ退ケ所長及教官ニ一年間ノ成蹟ヲ問ヒ點數ヲ附スヘシ

第一〇六　試驗終レハ其成蹟表ヲ附錄第三ニ依テ調製スヘシ

各科目ノ欄内ニハ各委員ノ合議成蹟並ニ所長ノ報告ニ依リ操典、勤務章程、馬學ノ成

蹟ヲ最優、優、上、中、下、最下ト畧記スヘシ

各委員同意見ノ成績ハ成績ノ下ニ線ヲ施スヘシ

第一〇七　成績不良ナルカ又ハ士官タルノ適否ニ就テ委員ノ意見不同ナルトキハ更ニ左ノ課目ヲ試驗ス

一、徒歩小隊教練ノ指揮

二、輜重兵中隊ノ繫駕教練ノ指揮

此試驗委員ノ列席者ハ委員長之ヲ定ム

## 第二十五章　試驗成績調査

第一〇八　委員ハ志願兵ノ豫備士官ニ適スルヤ否ヲ學術ノ試驗成績及實際上ニ就テ判定ス

第一〇九　試驗ノ成績ハ左ノ科目ニ依リ優等、可、不可ヲ定ム

一年志願兵ノ試驗科目

| 成績 | 實地適任 | 勤務規則第一部第二部 | 操典 | 輜重兵教範 | 馬學 | 輜重兵裝備 | 戰時軍隊ノ給養法 | 經濟經理勤務 | 軍制學 | 戰術及野外勤務 | 兵器學及射擊教範 | 地形學及製圖學 | 技術教授法 | 軍事文書式 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 優等 | | | | | | | | | × | × | × | × | × | × |
| 可 | | | | | | | | | | | | | | |

實地試驗ノ成績優等ナルモノハ×ノ符號ヲ附セル學科ノ二、三ハ可ノ成績ヲ得サルモ全成績ヲ可ト爲スコトヲ得

第一一〇　委員ハ及第セシ志願兵ノ名簿ヲ附錄第五ニ依テ調製シ成績ノ順序ニ記入ス若シ同成績ノ者アリシトキハ適任ノ優劣及委員可否ノ比例ニ依リテ列序ヲ定ム

第一一一　委員ハ落第及試驗ヲ受ケサリシ志願兵ノ考科表ヲ附錄第六ニ依テ調製スヘシ

第一一二　試驗成蹟表（附錄第三）完成スレハ之ヲ各人ニ付二通ツヽ調製シ委員長之ニ署名シ一通ハ志願兵ノ所屬隊ヘ送付シ一通ハ直接志願兵ニ下附ス

## 第二十六章　資格ノ決定

第一一三　志願兵ノ資格調査ハ砲兵旅團司令部ニ於テ整理ス

第一一四　志願兵ニ關スル左ノ書類ヲ九月下旬マテニ各隊ヨリ砲兵旅團長ニ進達スヘシ但此書類ハ試驗委員ニ示サザルモノトス

一、品行表　豫備士官タルニ適スルヤ否ヲ定メシ將校團會議ノ決定ヲ記ス

二、處罰調書ノ抜萃

三、家計證明
四、所得證明
五、豫備士官ニ任セラレシ時ハ常ニ官職相當ノ服裝武裝ヲ備ヘ所要ノ書類ハ必ス所持スル自筆ノ證書

第一一五　旅團長ハ各隊ヨリ提出セル書類ヲ調査シ及第名簿第八乃至第十二欄内ヘ記入スヘシ但身分職業ニ疑アルトキハ意見ヲ附シテ陸軍省ニ進達スヘシ尚ホ教育所長ノ報告（第二十三章）試驗成蹟表等ヲ審査シ豫備士官任命ノ上申ヲ及第名簿第十六欄ニ記シ否決シタルモノハ第十七欄内ニ理由ヲ記スヘシ

第一一六　砲兵旅團長ハ十月盡日迄ニ左ノ書類ヲ陸軍省ニ進達スヘシ

一、試驗成蹟表
二、及第名簿
三、落第及試驗ヲ受ケサリシ者ノ考科表
四、志願兵ノ身分職業ニ關スル意見但其隊ヨリ差出タル者ニ疑アルトキニ限ル

第一一七　砲兵旅團長ハ前項ノ進達書中及第名簿ノ寫ヲ志願兵ノ所屬隊ニ送付スヘシ家計證明書ハ本人ニ下附シ其他ノ書類ハ保存スヘシ

## 第二十七章　現役下士ノ豫備將校試驗

第一一八　三ヶ年服役ヲ終リタル下士ニシテ豫備士官適任ノ資格ヲ有シ一年志願兵ノ爲メ規定セラレタル諸規則ニ適シタル者ハ志願ニ依リ豫備將校試驗ヲ受クルヲ得

試驗科目ハ一年志願兵ニ同シ

## 第二十八章　落第及試驗ヲ受ケサル一年志願兵

第一一九　豫備將校試驗ヲ受ケサル志願兵及試驗ニ落第セシ志願兵ハ徵兵規則ニ依テ更ニ一ヶ年間現役ニ服セシムヘシ故ニ試驗委員長ハ之ヲ所屬隊ニ通知スヘシ

## 第二十九章　試驗延期

第一二〇　定期試驗ニ際シ疾病ニ罹リ軍醫ノ證明アル者及現役中一ヶ月餘疾病ノ爲メ缺課シ教育遲延セシ者ハ試驗開始前延期ヲ請願スルコトヲ得然ルトキハ定期外ニ一月、四月、六月上旬ノ内ニ於テ更ニ試驗ヲ行フ

第一二一　前項ノ志願兵ハ試驗ヲ終ルマテ現役ニ在テ其希望ニ依リ志願兵教育所ニ入リ學理ヲ研究シ或ハ中隊附トシテ實地勤務ノ教育ヲ受ケシム而シテ規定ノ試驗ニ落第シタルトキハ次年ノ志願兵ニ編入ス

## 第三十章　再脩學

第一二二　試驗ニ落第シ更ニ一ヶ年間脩學スヘキ志願兵ノ成蹟ハ附錄第六ニ依リ委員長ヨリ所屬隊ニ通知スヘシ所屬隊ハ之レニ依リテ教育所ニ入レ學理ヲ研究セシメ或ハ實地勤務ノ教育ヲ爲シ未熟ノ課目ヲ練習スヘシ

若シ第二年脩業中品行脩ラス或ハ怠惰ナル者アレハ所屬長ヨリ旅團長ニ申請シ豫備士

官タル教育ヲ廢止スヘシ

第一二三 再修學ノ一年志願兵ニシテ豫備士官ニ採用セラレサル者ハ所屬中隊ノ現役兵トシテ服務セシムヘシ

## 第三十一章 再修學ノ試驗

第一二四 再修學ノ志願兵ハ第二ヶ年ノ終リニ豫備將校試驗ヲ受クルコトヲ得此試驗ハ定期ニ異ナルコトナシ

## 第三十二章 豫備士官ヨリ現役ヘ轉職

第一二五 豫備役士官ヲ現役ニ轉セシムルコトハ平時ニ於テハ甚タ稀ナリ之ニ關スル規定ハ兵役規則ニ詳說ス

# 第四部 將校及士官候補生教育

## 第三十三章 目的、科目

第一二六 將校及候補生教育ノ目的ハ學識ヲ擴メ判斷力ニ富マシメ其職責ヲ確知シ勤務規則ヲ正當ニ解釋シ其實行ヲ確實ニシ且擊劍馬術射擊ニ熟達セシムルニアリ此目的ヲ達セン爲メ左ノ科目ヲ修習セシム

一、戰術實施
二、講義
三、對策
四、馬術擊劍及射擊
五、經理ニ關スル教育

## 第三十四章 戰術實施

第一二七 輜重兵聯隊及師團輜重兵隊本部所在地ニ在テハ戰術實施ヲ施行スヘシ此演習ノ目的ハ輜重兵將校ヲシテ軍隊ノ指揮ト輜重ノ關係ヲ確知セシメ輜重ノ運轉ヲ學科ニ於テ修得セシムルニアリ

第一二八 此演習ハ毎年十二月初ヨリ三月末ニ至ルマテ毎月二回宛二乃至三時間施行シ演習ハ地圖或ハ兵棋ニ依リテ施行シ行軍、宿營、戰鬪等ニ於ケル問題ヲ答解セシムヘシ

第一二九 此演習ハ中隊長中少尉及候補生ヲ參與セシムヘシ

第一三〇 演習員ハ軍團、師團又ハ枝隊ノ輜重兵隊長トス

統裁官ハ想定ヲ說ケ情報ヲ與ヘ問題ニ依テ適當ノ答解ヲ作ラシム

## 第三十五章 講義

第一三一 講義ハ左ノ事項ニ關シテ爲スヘシ

一、軍事學殊ニ戰時輜重勤務ニ就テ
二、軍事上諸般ノ進歩ニ關シテ
三、車輛ノ研究、他國軍隊車輛ト自國ノモノトノ比較
四、軍制、戰術及其他戰時勤務ニ關シテ
五、經理ニ關シテ
六、諸勤務及軍紀ニ關シテ
七、演習ノ講評
八、筆記作業ノ講評

第一二二 輜重兵士官ハ操典、教範、軍制及戰時勤務ヲ能ク記臆シテ忘ルヘカラス輜重兵隊長及中隊長ハ部下ノ將校ヲ奬勵シテ之ヲ學脩セシメ其實行ニ熟達セシムルコトヲ期スヘシ

操典及輜重勤務ノ外輜重兵士官ノ學習スヘキモノナシト云フニアラスト雖トモ之ヲ以テ教育ノ標準トナスコトヲ得ヘシ

第一二三 講義ハ十二月上旬ヨリ三月下旬マテ毎週一回施行スヘシ其時間ハ通常毎回一時半ノ規定トス

實地演習ノ時期ニ於テハ講義ハ須要ノ時ニノミ爲スヘシ

第一二四 職責ニ關スル勤務ノ教授ハ參謀士官又ハ適任ノ輜重兵大尉ヲシテ爲サシメ



他ノ學科ハ階級ヲ問ハス適任ノ士官ヲ教官トス

教官ハ教授上準備ヲ要スルヲ以テ學科開始ノ時ヨリ少クモ五六ケ月前ニ之ヲ命スヘシ而シテ教官ハ十月一日マテニ教授科目ノ豫定ヲ隊長ニ報告スヘシ

隊長ハ教官ノ申請ニ依リ教育日課豫定表ヲ制定ス此豫定ハ特別ニ開カルヽ講評等ニ依リ妨ケラルヽコトナキニ注意スヘシ

第一二五 須要ナル學科ニハ同一衛戍地ノ各將校及候補生ヲ參列セシムル又科目ノ種類ニ依リテハ下士ヲ參列セシムルコトアルヘシ

分遣士官ハ其地ノ軍隊ニ就キ必要ナル講義ヲ聽ク

將校僅少ニシテ全學科ノ講義ナキ片ハ同地ニアル他ノ軍隊ノ講義ヲ參聽セシムヘシ

輜重兵各隊ハ其士官ヲ彼是相合シテ講義又ハ講話ヲ爲スヲ良トスト雖トモ然ルコト能ハサル場合ニハ大隊長又ハ中隊長ニ於テ適當ニ處置スヘシ

第一二六 聯隊長又ハ大隊長ハ自ラ講義ヲ擔任セサル時ト雖トモ常ニ出席シ之カ監督及誘導ヲ勉ムヘシ若シ出席スル能ハサル時ハ參謀士官又ハ故參大尉ヲシテ代理セシムヘシ

講義ハ字句ノ解釋、無味ノ學理ヲ敷衍スルコトナク幽玄ヲ闡明ニシ實例ヲ引用シ經驗ヲ擧ケ聽者ヲシテ興味ヲ起サシメ記臆シ易カラシムルコトヲ勉ムヘシ

又學習ニ便宜ヲ與フル爲メ各隊ニ書籍室ヲ設ケ有益ノ書籍ヲ蒐集スヘシ

**第二三七** 戰時輜重兵勤務ノ講義之ニ關スル編成方法等ハ戰史ニ徴シ實驗ニ照ラシ或ハ作戰地圖ニ依リテ說明シ又ハ臨席者ヲシテ互ニ其利害ヲ論述セシメ根本ヨリ理解セシムルヲ要ス

**第二三八** 輜重ノ指揮法、運用法、輜重兵隊ノ裝備、制式車輛ノ構造、其搭載力、隣國ニ用ユル各種ノ車輛及他兵科ニテ爲スヘキ輜重ノ編制及裝備等ヲモ敎ユヘシ

**第二三九** 勤務及軍紀ニ關スル講義ハ勤務章程ノ原則ヲ敎ヘ各種ノ實歷ヲ講シ尙ホ實踐躬行以テ之ヲ誘導シ之ヲ薰陶シ强ユルコトナク知ラス識ラス良模型ニ入ラシムル如ク後進士官ヲ導クハ先輩將校ノ義務トス

**第一四〇** 凡テ講義ハ豫定表ヲ以テ揭示スヘシ此表ニハ科目及講演者ノ姓名ヲ記入スヘシ

此豫定表ハ學科ノ進歩ヲ見ルニ便ナルノミナラス翌年同一學科ノ豫定ヲ爲スニ參考トナルヘシ

**第一四一** 講義ノ爲メニハ特ニ一定ノ場所ヲ設クルヲ良トス而シテ其場所ニハ所要ノ圖書ヲ備フヘシ若シ場所ナキ時ハ擊劍場ヲ用ユルモ可ナリ然ルトキハ衛戍司令官ハ此便宜ヲ與フヘキ事ヲ命令スヘシ

**第一四二** 軍隊ニ獨逸語以外ノ語ヲ用ユルモノ多數ナルトキハ當局士官ヲシテ自ラ其國語ヲ學習セシム若シ多數ノ士官同一國語ヲ學習セントセハ衛戍司令官ハ之ニ適當ノ



保護ヲ與フヘシ

## 第二十六章 對策

**第一四三** 對策ハ動員、行軍、駐軍、戰鬪中ノ輜重兵勤務、輜重縱隊ノ警戒ニ關スル野外勤務及戰術ニ關シテ施行スヘシ

對策ノ目的ハ將校ヲシテ理解力及判斷力ヲ銳敏ナラシメ何レノ事變ニ際スルモ其決斷ヲ迅速ニシ其處置ヲ適當ナラシメ其自信力ヲ强固ナラシムルニアリ

對策ハ實地演習ノ豫備トナリ且其補足ヲ爲スモノニシテ實地演習ト相待チ相輔ケ以テ軍事上ノ進歩ヲ著ハスコトハ爭フヘカラサルコトナリトス

**第一四四** 對策度ヲ重ヌルニ從ヒ各將校ノ學術ノ進歩ヲ認ムルニ至ルノミナラス各自故ニ對策ニ於テ其答解正確適當ナリト評決セラルヽ時ハ之ヲ實地ニ執行スルヲ得ヘシ

ノ知識ノ程度ヲ知ル事ヲ得ヘシ故ニ問題提出者及答解者共ニ敎育上緊要ナルモノトシテ鄭重ニ從事スルヲ要ス

**第一四五** 對策ハ室內ニ於テ地圖或ハ兵棋ニ依テ施行シ或ハ野外ニ出テ現地ニ就テ爲スヘシ

**第一四六** 此講究ニハ聯隊長ヲ除キ其他ノ隊附將校及候補生ハ悉ク參與シ或ハ問題提出者トナリ或ハ答解者タルヘシ

**第一四七** 問題提出者ハ左ノ如シ

一、師團輜重兵隊長ハ中隊長（次項ノ者ヲ除キ）ニ問題ヲ與フ
二、師團輜重兵隊長ハ一名ノ中隊長ニ命シ中少尉及候補生ニ問題ヲ與ヘシム
三、分遣中隊長ハ部下ノ中少尉及候補生ニ問題ヲ與フ

第一四八　中少尉ハ其階級ニ從ヒ又ハ進歩ノ程度ニ依リ一斑又ハ數斑トシ候補生ハ特ニ青年ノ少尉ト合スルカ又ハ別ニ一斑ヲ設クヘシ

第一四九　對策ハ十二月初ヨリ三月末マテニ室内ニ於テ二回四月上旬ヨリ六月下旬マテニ野外ニ於テ二回施行スヘシ

第一五〇　室内ニ於テスル對策ハ定日ニ參列員ヲ集合シ問題ヲ揭ケ直ニ答解セシムヘシト雖モ答解者ヲシテ豫習セシムル爲メ研究スヘキ書籍ヲ豫メ指示ズヘシ

第一五一　問題ハ揭示マテ秘スヘシ

第一五二　室内ニ於テスル對策ノ問題ハ平時實施シ能ハサルコト及學理上ノ研究ニ屬スル編制、動員、鐵道船舶輸送等ニ關スルモノタルヘシ

一、高等司令部ノ前進命令ニ基キ師團輜重ノ行軍序列
二、動員ニ關スル輜重兵中隊ノ日課制定
三、同到着報告法、並ニ馬匹受領ノ手續
四、馬匹輸送法
五、輜重兵隊長勤務ノ適切ナル記述
六、輜重掩護隊ニ關スル命令
七、動員ノ初ヨリ目的地ニ達スルマテ馬廠ニ關スル事項

右ノ如キ問題ヲ以テ答解セシムル主意ハ答解者ヲシテ得タル任務ヲ適當ニ順序正シク自己ノ意見ヲ以テ實施スルニ當リ豫メ研究シ置クヘキ必要ヲ各自ニ感セシメ最モ簡易ナル方法ニ依テ實施スヘキ考案ヲ作爲セシメントスルニアリ

參謀士官及故參大尉ハ動員又ハ戰爭中ニ經驗セル材料ヲ以テ有益ナル問題ヲ撰定スヘシ

動員順序ヲ講究ノ目的ト爲スト雖モ動員ノ秘密ヲ口外スルコトナク單ニ士官ヲシテ動員ニ際シ何ヲ爲シ或ハ何レノ方法ヲ最良トスルヤヲ明解セシムレハ足レリ

室内ニ於テモ亦野外作業ノ問題ヲ提出スルコトヲ得ヘシ然ルトキハ參列員ノ實見セサル地形ヲ撰定シ未知ノ地形ヲ圖上ニテ判斷スルコトニ慣レシムルヲ要ス

第一五三　問題ハ範圍ノ洪漠ナラサルモノニシテ實際必要ノモノヲ撰ミ答解ニ要スル時間ハ二三時間ヲ限リトスヘシ

第一五四　講究ニハ一般地圖及特別地圖ヲ用ユヘシ唯戰鬪ノ計畫ニ於テハ局地圖ヲ用ユルコトヲ許ス然ルトキハ問題提出者ニ於テ適當ノ時ヲ計リテ之ヲ配賦スヘシ

第一五五　野外ニ於テスル對策ハ衛戍地附近ニ於テスヘシ

第一五六　野外ノ對策ハ自ラ地形ヲ判斷シテ考案ヲ定メ答解ヲ爲スモノトス

問題ハ戰鬪中時々發生スヘキ事項或ハ大ナル輜重縱隊ニ起ルヘキ紛雜、混難ノ事項ニ關シ適當ノ處置ヲ爲サシムルコトニ注意スヘシ其一例ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、各所ニ離隔宿營セル大ナル輜重縱列ノ出發

二、集合セル大輜重縱列ノ集合

三、困難ナル地形通過ノ場合

四、行軍隊形ヨリ各地ヘ分遣

五、舍營、露營、野營地ノ偵察及撰定

六、馬匹及車輛ノ徵發

七、行軍又ハ宿營セル輜重縱列ノ警戒法

八、戰鬪及警急集合ニ際シ輜重兵ノ處置、動作

第一五七　戰術上ノ問題ハ地形ヲ顧慮シ兵種及軍隊ノ數ヲ確定シテ提出シ進歩ノ度ニ應シ漸次諸兵連合ノ演習ニ及ホスヘシ

通常大尉ニハ輜重掩護隊トシテ歩兵一大隊、騎兵一中隊、砲兵一中隊、中少尉ニハ歩兵一乃至二中隊、騎兵一乃至二小隊ノ問題ヲ與フヘシ

問題ニ特ニ示サヽルトキハ編制ハ戰時定員トス

第一五八　答解ハ短簡明瞭ニシテ繁雜ナラサルコトニ注意スヘシ殊ニ實戰ニ際シ必要ナル事ニ限ルヲ要ス



答解ノ要ハ第一ニ問題ノ主意ヲ解シ大體ノ處置ヲ決定シ終ニ細部ニ及ホスニアリ故ニ問題モ亦此要領ニ依ルヲ要ス

問題提出者ハ答解ノ時間ヲ定メ其時間ヲ經過セハ更ニ情況ヲ與ヘ次ノ問題ニ移ラシムヲ勉ムヘシ

第一五九　戰術問題ハ對敵、前進、退却等ノ情況ニ關係シテ實戰ノ景況ヲ寫出スルヲ要ス

第一六〇　問題ハ命令法ニ依リ口頭又ハ筆記ニテ與ヘ其言語文章ハ軌範タルヲ要ス又問題提出者ハ答解者ノ言語文章ヲ短簡明瞭確實ナラシムルコトニ注意スヘシ

如斯シテ以テ互ニ善良ナル言語、文章ニ熟達スルコトヲ期スヘシ

第一六一　答解ハ問題外ニ亘リ或ハ簡畧ニ失スルヲ許サス質疑ニ於テモ亦然リ

第一六二　問題中ニ地形判斷ノ意ヲ含ムトキハ之ヲ詳說スルヲ要セス實地適當ノ處置ヲ爲スヘシ

任務ノ實行、輜重縱列ノ運轉、掩護兵ノ使用等ニ關スル答解ハ利害得失ヲ明瞭短簡ニ筆記スヘシ

第一六三　任務ノ實行ニ關スル答解ハ敵情、地形、自己ノ位置、任務等ヲ顧慮シ、交互ノ關係利害得失ヲ考定シ之ニ依テ斷案ヲ下シ其計畫ヲ明瞭ニスヘシ

第一六四　命令ハ自己ノ思想ヲ現ハスモノナレハ最モ注意シテ作爲スルヲ要ス假令適良ナル計畫ト雖トモ了解シ難キ命令ナルトキハ毫末ノ用ヲナサヽルヘシ

命令ハ命令語ヲ以テ其様式ニ依リ誤解ヲ生セサル如ク記スル方法ヲ學ハサルヘカラス
又命令ハ必要ノ語ニ限リ一ノ贅語ヲ加フルヲ許サス
命令詞ハ戰鬪間ニ用ユル者ノ如クシ以テ戰時ノ情況ニ適セシムヘシ
敵ニ近接シ充分ナル時間ヲ得ス或ハ天候ノ爲メ或ハ情況未詳等ノ口實ヲ以テ命令ヲ作ルコト能ハストシテ其責ヲ免カルヽヲ許サス
命令報告ノ終リニハ其傳達法ヲ附記スヘシ
野外ニ於ケル命令、報告ハ其用紙ニ鉛筆ヲ以テ明カニ筆記スヘシ上官ト下官トヲ問ハス戰時ニ於テハ文意了解シ難ク或ハ文字不明ニシテ判斷ヲ要スルカ如キコトアルヲ許サス

第一六五　軍隊及輜重縱列ニ關スル畧圖ヲ屬々筆記セシメ是ニ依テ其變換シタル位置ヲ記臆シ及略圖ノ調製ニ習熟セシムルヲ要ス

畧圖ハ規定ノ符號ニ依リ色鉛筆ヲ以テ記スヘシ

第一六六　野外ニ於テハ問題ヲ答解スル爲メ日々六乃至八時間ヲ用ユヘシ
地形ハ乘馬ニテ視察シ或ハ適當ノ地ニ位置シテ解說ス時宜ニ依リ問題提出者ヨリ說明スルコトアルヘシ

第一六七　答解ノ表書ニハ隊號官姓名、月日及問題ヲ式ノ如ク記スヘシ

第一六八　答解ハ指定時間內ニ完結シテ問題提出者ニ出スヘシ

第一六九　答解ニハ充分ナル時間ヲ與フヘシ而シテ指定時限ニ至レハ完成ト否トヲ問ハス悉皆之ヲ集メ更ニ問題ヲ與フルカ或ハ作業ヲ停止スヘシ如何ナル事情アルモ問題ヲ宿舍ニ持歸ルヲ許サス

第一七〇　答解ノ講評ハ問題提出者ニ於テ之ヲ爲スヘシ而シテ其講評ハ適切ニシテ除々ニ全體ヨリ細部ニ及ホシ專ラ教育ヲ主トシ決シテ譴責誹謗ニ亘ルヲ許サス
誤謬又ハ缺點アルトキハ其點ヲ教示シ學習ノ材料ヲ與フヘシ

第一七一　問題提出者ハ自己ノ信スル所ニ依リ口頭ヲ以テ問題ヲ解說シ尙多數同一ノ任務又ハ軌典ニ反シタルトキハ之ヲ明示スヘシ然レトモ誤謬ニアラサル限リハ提出者ノ意見ト異ナルモ特別ノ意見ト見做スヘシ

筆記ノ講評ニ於テ原則ニ關スルモノアルトキハ之ヲ口述ニ讓ルヘシ

第一七二　答解ハ講評ヲ附シ一度本人ニ下附シ熟覽セシメタル後チ聯隊長ニ進達スヘシ

第一七三　問題提出者ハ毎年七月附錄第七表ヲ調製シ之ニ問題及答解ヲ添付シ順序ヲ經テ所轄砲兵旅團長ニ報告スヘシ

第一七四　師團輜重兵隊長及輜重兵聯隊長ハ前項ノ報告ヲ受領スレハ之ニ意見ヲ附シ上官ニ進達スヘシ

第一七五　砲兵旅團長ハ前項ノ報告ヲ受領スレハ其可否ヲ判定シ各士官ノ考科表ニ記入シ若シ注意ヲ要スル所アレハ之ヲ筆記シテ問題提出者ニ教示ス

第一七六　砲兵旅團長答解書ヲ點檢シ畢レハ之ヲ軍隊ニ返附ス軍隊ニ於テハ之ヲ保存スル要ナキトキハ各本人ニ下附スヘシ

## 第二十七章　馬術

第一七七　輜重兵將校ハ馬術ニ熟達ナルヲ要ス故ニ數々馬場又ハ野外ニ於テ演習スヘシ

第一七八　將校及候補生ノ馬術ハ馬場ノ使用ヲ順慮シテ日課ヲ定ムヘシ

第一七九　各師團輜重兵隊或ハ分遣中隊ノ將校ハ各一班トシテ故參將校ノ指揮ヲ以テ演習スヘシ

第一八〇　馬術未熟ノ士官及候補生ハ別ニ一班トシ乘馬學校卒業士官ヲ以テ教官トシテ演習セシム

第一八一　特別技術ヲ有スル者ハ官馬ヲ以テ自由ニ乘馬セシムルコトヲ得

第一八二　一衛戍地ニ在ル輜重兵各隊ノ新馬又ハ調教ヲ要スル馬匹ハ合シテ一班ヲ作リ熟練ノ士官ヲ教官トシ適當ノ士官又ハ候補生ヲシテ調教セシム

第一八三　場外作業ハ師團輜重兵隊長又ハ故參中隊長ノ指揮ヲ以テ季節天候ノ良好ナル時或ハ冬季ニ於テ施行スヘシ



場外作業ハ野外各種ノ地形ヲ通過シ騎術ニ熟練セシムルモノナルヲ以テ地形變化ノ多キ場所ヲ撰ムヘシ此作業ト同時ニ地形偵察又ハ輜重勤務ノ小問題ヲ以テ現地講話ヲ行フコトヲ得

又此作業ハ機動演習或ハ步、砲兵射撃演習、架橋演習參觀等ノ時ヲ利用シテ施行スヘシ

第一八四　師團輜重兵隊長ハ場外作業ニ於テ馬匹ノ持久力、騎者ト馬匹ノ關係、裝蔽裝勒ノ良否並ニ乘馬具ノ試驗ヲ行フヘシ

## 第二十八章　乘馬學校ヘ分遣

第一八五　各師團輜重兵隊ヨリ毎年二名ノ士官或ハ候補生ヲ砲兵旅團乘馬學校ヘ入學セシメ全科ヲ修業セシム其入學ニ關スルコトハ陸軍省ノ規定ニ從フ

學生ト爲スヘキ者ハ未タ此學校ニ入學セサル者及騎兵乘馬學校ノ卒業成蹟不良ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第一八六　學生ニハ所屬隊ヨリ乘馬壹頭新馬一頭馬卒一名ヲ與フヘシ

馬卒ニハ武器被服及裝具ヲ携帶セシメ馬匹ニハ馬具手入具等馬匹ニ要スル物ハ悉皆附屬セシムヘシ

第一八七　分遣學生、馬卒及馬匹ハ軍團砲兵聯隊又ハ同中隊補充廠ヨリ給養ヲ受クヘシ

士官ニハ將校馬具、候補生ニハ下士用馬具ヲ使用セシムヘシ

第一八八　乘馬學校教育ハ十月一日ニ始メ四月盡日ニ終ル故ニ學生、馬卒、馬匹ハ九月二十日ニ同校ニ參集スヘシ

第一八九　入校後一ケ月ノ後試驗ヲ行ヒ不能ト認ムル學生ハ退校ヲ命スヘシ若シ所屬隊ニ於テ他ニ適當ノ者アリテ學術共ニ追及ノ見込アレハ補缺入校ヲ許ス疾病事故退校ノ時モ亦同シ然レトモ二ケ月以上經過ノ後ハ之ヲ許サス

第一九〇　輜重兵聯隊長及師團輜重兵隊長ハ乘馬學校卒業試驗ニ列席スヘシ

卒業試驗結了スレハ砲兵旅團長ハ其成績ヲ輜重兵聯隊長ニ通知ス此成績ハ考科表ニ記入スヘシ

## 第二十九章　擊劍及射擊

第一九一　冬季ハ毎週一回故參將校ノ指揮ヲ以テ擊劍演習ヲ施行ス青年士官候補生ハ必ス出席スヘシ其他擊劍ニ熟練ナル將校モ此須要ナル演習ニハ勉メテ出席スヘシ

第一九二　擊劍ノ教官ハ適任ノ將校ヲ以テ之ニ充テ又ハ此術ニ熟練ナル下士ヲ隊長ノ命令ヲ以テ充ツルコトヲ得

第一九三　擊劍ハ講堂又ハ適當ノ場所ニ於テスヘシ

第一九四　輜重兵聯隊長或ハ師團輜重兵隊長ハ士官及候補生ヲ他隊ノ擊劍演習ニ參列セシムルコトヲ得但此場合ニハ豫メ他ノ隊長ト協議スヘシ

第一九五　士官及候補生ノ拳銃及騎銃射擊ハ好季節ニ於テ全員悉ク出場スヘシ

## 第三十章　經理ニ關スル教育

第一九六　輜重兵聯隊ニ於テハ毎年見習士官或ハ候補生兩三名宛會計經理ノ勤務ヲ修得セシム

此見習士官或ハ候補生ハ在隊一ケ年以上ニシテ成績良好且考科表ニ進級スヘキモノト記載セラレタルモノタルヘシ

第一九七　前項ノ見習士官或ハ候補生ハ中隊附ヲ命シ會計事務ヲ見習セシメ之ヲ脩得スレハ獨立シテ書記ノ職務ヲ取ラシム就中熟達ノ者ハ輜重兵聯隊又ハ師團輜重兵隊副官部ニ配屬シ單ニ會計事務ノミナラス副官ノ事務ヲモ彙習セシメ他日副官ノ職ニ補スルノ準備ヲ爲スヲ要ス但此教習ハ一ケ年ヲ超過スヘカラス又脩業中モ數々實地演習ニ參與セシムヘシ

第一九八　此規定ニ依リ多數ノ書記ヲ出セシ時ハ隊長ノ意見ヲ以テ中隊附トナシ或ハ隊外書記ト爲シ各種ノ勤務ヲ執ラシムヘシ

## 第四十一章　他兵科糧食委員ノ教育

第一九九　軍團長ハ步兵獵兵及騎兵ノ中少尉ニ糧食委員勤務ヲ學習セシムル爲メ春季ニ於テ六週間以內師團輜重兵隊（或ハ中隊）ヘ分遣ヲ命ス

第二〇〇　教育ハ實地應用ヲ主トシ學理ハ之ニ必要ノモノニ限ルヘシ其科目ハ左ノ如シ

一、輜重各部ノ編制、規則、用法並ニ事變ニ際シテノ處置
二、輜重車輛、馬裝法及輜重材料ノ取扱
三、繫駕教練
四、輜重兵勤務規則
五、馬匹手入、飼養及看馬法
六、戰時輜重勤務
七、軍隊經理規則及給養法
八、歩兵並ニ騎兵師團及軍團ノ編制組織

第二一〇一　教官ハ隊長又ハ其他ノ士官ヲ以テ之ニ充ツルヲ得ヘシ然レトモ左ノ科目ハ特別トス

一、輜重兵ノ戰術實施及戰時給養勤務ハ參謀官ヲシテ擔任セシム
二、軍隊經理規則及給養勤務中經理ニ關スル事項ハ監督ヲシテ擔任セシム
三、其他ハ輜重兵士官ノ擔任トス

第二一〇二　教授ニ要スル中隊彈藥車及千八百八十八年式ノ器具車ハ歩兵聯隊及獵兵大隊輜重材料中ヨリ供シ其他ノモノハ輜重兵隊ノ豫備品ヲ流用スヘシ

第二一〇三　學科ハ適當ノ室ニ於テスヘシ其費用ハ凡テ國庫ヨリ支辨ス



第二一〇四　各隊ノ戰時糧食委員タルヘキ者並ニ平時糧食委員ハ毎年秋季ノ輜重兵演習ニハ勉メテ參與セシムヘシ

## 第五部　他兵科下士兵卒ノ輜重兵勤務教育

### 第四十二章　目的

第二一〇五　平時ヨリ輜重材料ヲ備フル部隊ニ於テハ之カ取扱ニ熟練ナル下士兵卒ヲ養成セサルヘカラス又踏鐵、車輛及輓具ノ製作修理ニ必要ノ鍛工ヲ養成スルヲ要ス

下士ハ教官タル技能ヲ備ヘシメ且輜重材料ノ保存、格納法ヲ脩習スルヲ要ス

### 第四十三章　分遣ノ規定

第二一〇六　各隊ハ左ノ人員ヲ師團輜重兵隊ニ分遣シ輜重兵勤務ノ教育ヲ受ケシムヘシ

一、歩兵及騎兵聯隊
毎年下士一名、鍛工、鞍工、各一名
二、工兵及鐵道大隊
隔年ニ歩兵聯隊ト同一人員
三、衛生隊
第一、第二、第十六衛生隊ハ毎年二名其他ハ毎年一名ノ看護長

### 第四十四章　分遣者ノ撰定及區分

第二〇七　各隊ハ輜重兵勤務ノ教育ヲ受クヘキ者ヲ撰抜シ其名簿ヲ毎年十一月盡日マテニ軍團長ニ進達スヘシ

軍團長ハ右ノ名簿ニ依リ教官ト教育材料ヲ顧慮シ輜重兵各隊ヘノ配賦及同時ニ教育スヘキ人員ヲ定ムヘシ

## 第四十五章　教科ノ區別及在學期

第二〇八　教育ハ各人ノ職務及兵種ニ依リ異ナルノ類ナリ

ヲ除キ專ラ蹄鐵術ヲ教ユルノ類ナリ

第二〇九　教育ハ三種ニ分ツ左ノ如シ

一、車輛長タルヘキ下士ノ教育

二、鍛工ノ教育

三、鞍工ノ教育

第二一〇　教育期限ハ左ノ如シ

甲、歩兵獵兵及特科隊ノ下士ハ三ケ月

乙、騎兵及衛生隊ノ輸送車長タルモノハ六週間

丙、鍛工及鞍工ハ六週間

第二一一　輜重兵隊ニ於テハ前項甲ニ掲ケタルモノハ爲メ一月一日ニ乙丙ノ爲メニ月十六日ニ入隊ノ準備ヲナスヘシ

## 第四十六章　教育規定

第二一二　教育ノ程度ハ左ノ如シ

一、歩兵騎兵ノ下士ハ輸送車長タルヘキ者ノ爲メニ規定サレタル全部

二、鍛工ハ蹄鐵術及車輛修理作業

三、鞍工ハ鞍具製作作業

第二一三　教育豫定及時間ノ規定ハ輜重兵隊長ニ於テナスヘシ

第二一四　教育期ハ短少ナルヲ以テ適當ニ時間ヲ使用スルコトヲ研究スヘシ而シテ主トシテ術科ヲ施行シ學科ハ實施ニ必要ナルモノ及實施スル能ハサル學理ニ限ルヘシ

第二一五　學生ノ班別ハ科目及素養ノ程度ニ依ルヘシ

## 第四十七章　指揮官及教官

第二一六　輜重兵隊長ハ教育ヲ監督シ全般ノ指揮ヲ掌ルモノトス

第二一七　隊長ハ教官助教ヲ撰定任命スヘシ若シ教官助教ト爲スヘキ者ナキ時ハ同術成地ノ他隊ノ者ニ任命セラレンコトヲ軍團長ニ申請スヘシ軍團長ハ此補缺ヲ命スルコトヲ得

第二一八　教官ハ士官獸醫各一名トシ學生ノ數ニ應シ下士及鍛工若干名ヲ助教トスヘシ

第二一九　教官ノ參考書ハ車輛教範、輜重兵操典及蹄鐵學ノ類トス

## 第四十八章　教授用材料

第二一〇　教育擔當ノ輜重兵隊ニハ千八百六十七年同八十年式ノ有蓋車及器具車千八百八十八年式輜重輓馬具二組ヲ備附置クヘシ其保存ハ教官タル士官ノ責任トス

第二一一　教授用材料破損スル時ハ軍吏部ヨリ費用ヲ得ヲ輜重兵隊工場ニ於テ修理スヘシ

第二一二　必要ノ駕馬ハ當該輜重隊ノモノヲ使用スヘシ

## 第四十九章　試驗

第二一三　教育ノ終リニ於テ輜重兵隊長ハ試驗ヲ行ヒ其成績ヲ所屬隊ニ通知スヘシ

第二一四　砲兵旅團長ハ試驗科目及日割ヲ定メ要スレハ自ラ其成績ヲ檢査ス

## 第六部

## 第五十章　軍團長ノ報告

第二一五　軍團長ハ毎年教育ニ關シ將校、下士、兵卒ノ成績及之ニ關スル意見ヲ報告スヘシ

墺國軍隊教則輜重兵ノ部終

# 輜重兵一年志願兵教育科目表

| 授業科目 | 教官及學生用參考書 | 教育ノ目的 | 學科ノ程度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 服務章程第一部及第三部 | 軍隊服務章程ノ中一千八百十六年ノ規定タル第三部ニ關スル輜重兵隊ノ服務章程第一、二、三、四部第二十二條ヨリ第五部第二十四條ニ至ル第二十六、二十七、二十九ヨリ三十三、三十五ヨリ三十七條ニ至ル第七部第四十一章第八部第四十六章第十三部第八十六章 | 服務章程第一部全体特ニ輜重兵中少尉ノ勤務ヲ學ハシムル事項ヲ要スル下士官位置及教練ヲ殊ニ必要ナル部分 | 全部ヲ學フヲ要ス | 第二第三學期ノ間ハ一年志願兵ヲシテ監視勤務ヲ執ラシム |
| 服務章程第二部 | 第三部服務章程中特ニ士官ノ職責ヲ知ラシムル第五部第二十五章第六部第二十八章第十部第十五條ニ至ル第十一部第五十九條ヨリ第十二部第七十三ヨリ第七十五條 | | | |
| 服務章程第三部 | 第六部第四十章第七部第四十二章第八部第四十七ヨリ五十四條第九部第五十五、五十六、五十八條第十三部第八十七ヨリ九十一條ニ至ル第十四部第九十二ヨリ百一條ニ至ル附錄第一、二、三 | 徒歩教練及乘馬教練<br>輓馬教練<br>下士及士官位置及教練<br>平時ノ人員ヲ以テスル中隊ノ輓馬教練 | | 改正服務章程ヲ監視勤務ヲ執ラシムル第三部ノ出版ニ至ル迄ハ輜重兵隊ノ爲メ規定セラルヘシ<br>*記號ハ改正第三部ノ出版ニ至ル迄 |
| 操典 | 輜重兵操典 | 操典ハ精細ニ學修セシム | 教育ノ目的ニ從ヒ輜重兵教範ノ規定ハ輜重ノ應用部ノ教育ニヨリ證明スヘシ<br>右ノ演習ハ第二十四及三十六章ノ精神ニ基クヘシ而シテ問題ハ輜重兵中少尉ニ適スルモノヲ以テス | 野戰軍ノ編成ニ關スル教範ハ先キニ講義スヘシ |
| 輜重兵教範 | 野戰軍ノ爲メノ輜重兵教範 | 輜重兵教範ノ中少尉ニ必要ナルヘキ規定ノ教育 | | |
| 馬學 | 軍隊馬學教範第一部（平時ニ於テ） | 馬匹ニ關シ輜重兵士官ニ必要ナルモノ | 馬匹ノ解剖生理ノ大要並ニ外貌及疾病蹄鐵*<br>馬匹ノ採用及運動力ニ關スル判定法並ニ馬匹ノ手當及看護** | 此ノ學科ハ實物ニ就キテ教ユヘシ<br>*獸醫ヲシテ教授ヲ擔當セシム<br>**此ノ科目ハ士官ニ依リテ教授セラル |
| 輜重兵裝備 | 野砲及山砲中隊ノ繫駕教範<br>輜重兵材料取扱法<br>軍隊輜重裝備規則 | 規定サレタル繫駕法及車輛<br>乘馬輓馬及駄馬ノ馬裝 | 參考書中ノ科目ニ付唯輜重兵中少尉ニ實地上必要ナルヘキ者ヲ以テス<br>又各科目中單ニ能力ヲ要シ其結果ノ少キ者ハ省畧スヘシ | 教授ノ材料ハ務メテ實物ヲ示シテ教ユヘシ<br>寸法及構造ノ細部ハ不用ナリ |
| 戰時軍隊 | 軍隊給養法第二部 | 軍隊給養法<br>中特ニ輜重兵ニ關スル | 下ニ記載スルモノ規定ニ | 必要ナラス且思考ヲ要スル者ハ避ク |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 服務章程第一部 | 全部ヲ學フヲ要ス | 全部ヲ學フヲ要ス | 輜重兵中少尉ノ任務ニ必要ナルモノ | 第七部第三十三章<br>第九部第五十、五十一、五十三章<br>第十二部第七十九章 |
| 服務章程第二部 | 第九部第五十二章<br>第十二部第七十七、七十八、八十、百、百二條 | | | |

| 軍制學 | 軍制學 | 陸軍公文書式 | 會計經理勤務 | 戰時軍隊給養法 | 輜重兵裝備 | 馬學 | 輜重兵教範 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基本戰術 | 一 千八百八十九年墺國及ウンガルン帝國徵兵規則 | 軍隊勤務規則第一部總則 | (第一)軍隊小部隊ノ會計經理規則 (第二)輜重兵聯隊輜重裝備材料ノ監督法及會計法 | 軍隊給養法第二部 戰時給養法 | 野砲及山砲中隊ノ繫駕教範 輜重兵材料取扱法 軍隊輜重裝備規則 | 軍隊馬學教範第一部 (平時ニ於テ) | 野戰軍ノ爲メノ輜重兵教範 |
| 緒論 第十六部第十五、 | 二 輜重隊及輜重材料廠ノ編制規則 | 軍事文書式ノ必要ナル規則及形式ヲ教ヘシメ以テ信任スルニ耐ヘシム 輜重兵中少尉ニ必要ナルヘキ文書ノ書方並ニ下士兵卒ノ勤務ニ關シ又豫備士官タルニ必要ナルヘキ文書ヲ學ハシム | 經理勤務及中隊及輜重豫備隊ノ經理ニ關スル各項並ニ輸送ニ關スル事項ノ教育 | 軍隊給養法 中特ニ輜重兵ニ關スル部 | 規定サレタル繫駕法及車輛 乘馬輓馬及駄馬ノ馬裝 輜重材料ノ取扱法 | 馬匹ニ關シ輜重兵士官ニ必要ナルモノ | 輜重兵教範ノ中少尉ニ必要ナルヘキ規定ノ教育 |
| | 三 *他隊學校官衙及司令部規則 | 長官、同等官、及下級官ニ勤務上往復スヘキ文書(第四章及五章) 陛下ヘノ上書式 勤務上ノ通信ノ名稱 左ノ事項ハ精細ニ學習スルヲ要ス 軍隊條例(第九章) 勤務書及規則(第十章) 軍事事務章程(第十一、十二章) 草稿及公文書(第十三ヨリ十五及十九章) 下級官ノ淨書編纂 文書ノ送達(第二十三章及二十六章) | 第一參考書中次ノ各項 總論 兵卒及馬匹ノ定員ヲ明白ニ記載スルコト 金圓、品物、食器、煙草ノ請求、調辨及分配 小部隊ニ關スル必要ナル會計上ノ勤務 責任ヲ負フヘキ原則及動員(戰時)ニ際スル特別規定 個々ノ條項ニ關スル附錄及必要ナルヘキ明細書類 第二參考書中 輜重隊下士兵卒ニ關スル輜重裝備材料ノ經理精算ノ各項 | 下ニ記載スル規定ニ從ヒ教育ヲ施ス 全部ヲ學フヲ要ス 第七部第三十三章 第九部第五十、五十一、五十三章 第十二部第七十九章 輜重兵中少尉ノ任務ニ必要ナルモノ 第九部第五十二章 第十二部 第十二部第七十七、七十八、八十、百、百二條 第十三部 單ニ必要ナル部分 第一本則 第六部第二十九ヨリ三十二條 第十部 第十二部第八十一、八十六、八十七條 | 參考書中ノ科目ニ付唯輜重兵中少尉ニ實地上必要ナルヘキ者ヲ以テス 又各科目中單ニ能力ヲ要シ其結果ノ少キ者ハ省畧スヘシ | 馬匹ノ解剖生理ノ大要並ニ外貌及疾病蹄鐵* 馬匹ノ採用及運動力ニ關スル判定法並ニ馬匹ノ手當及看護** | 輜重兵教範ノ規定ハ輜重ノ應用部ノ教育ニヨリ證明スヘシ 右ノ演習ハ第三十四及三十六章ノ精神ニ基クヘシ而シテ問題ハ輜重兵中少尉ニ適スルモノヲ以テス |
| | 四 野外軍隊編制規則 | 軍事文書式ノ教授ノ目的ハ一年志願兵ヲシテ報告、通報、口供、命令等ヲ作ルニ習ハシメンタメナリ 右ノ目的ニヨリ其教授ハ唯ニ理論上ニ止マラス適當ナル筆記上ノ演習ヲナサシムヘシ | 一年志願兵ニシテ獨乙語ヲ知ラス僅ニ之ヲ知ル者ニシテ士官ノ勤務上ニ必要ナル者ハ之ヲ學ハシムヘシ 右ノ如キ志願兵ニハ此語學ヲ修學スル爲メ務メテ多數ノ時間ヲ與フヘシ | 單ニ學理上ニ關スルモノ及學校的ナル教育ハ避クヘシ而シテ實際的ニ教育スルコトヲ務ムヘシ又此ノ目的ニヨリ短簡ナル學理上ノ教育ヲ施シ必要ナル問題ヲ提出シ又之ニ答ヘシムヘシ | 必要ナラス且思考ヲ要スル者ハ避クヘシ | 此ノ學科ハ實物ニ就キテ教ユヘシ *獸醫ヲシテ教授ヲ擔當セシム **此ノ科目ハ士官ニ依リテ教授セラル | 野戰軍ノ編成ニ關スル教範ハ先キニ講義スヘシ |
| | 五 *徵兵規則 第三部及第四部 | 徵兵職責及勤務義務ニ必要ナル墺國ウンガルン徵兵規則ノ原則 | 特ニ一年志願兵ノ爲メ規定サレタル參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | | 教授ノ材料ハ務メテ實物ヲ示シテ教ユヘシ 寸法及構造ノ細部ハ不用ナリ | | |
| | 豫備兵及豫備士官ニ關スル規則ヲ學ハシム | 野外ニ於ケル輜重隊及豫備隊ノ編制規則ニ關スル適當ナル證明(見解ヲ廣クセス且腦力ヲ要スルモノハ避クヘシ) | **編纂中ナリ明細規定第一第二部ヲ補フ | | | | |
| | 二 輜重隊及輜重材料廠ノ編制規則 | 豫備士官ニ必要ナル編制規則ノ學修 | | | | | |
| | 三 *他隊學校官衙及司令部規則 | 墺國及ウンガルン帝國軍隊ノ編制ヲ學ハシム | | | | | |
| | 四 野外軍隊編制規則 | 野外ノ軍隊殊ニ步兵師團編制ヲ學ハシム | | | | | |
| | 五 *徵兵規則 第三部及第四部 | 豫備兵及豫備士官ニ關スル規則ヲ學ハシム | | | | | |

| 陸軍公文書式 | 軍制學 | | | | | 戰術及野外勤務 | 兵器及射擊學 | 技術教育 | | | 教育科目 | 軍事上ノ演習及能力 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | | | 工兵勤務 | 地形學 | 製圖學 | | |
| 軍隊勤務規則第一部總則 | 千八百八十九年墺國及ウンガルン帝國徵兵規則 | 輜重隊及輜重材料廠ノ編制規則 | *他隊學校官衙及司令部規則 | 野外軍隊編制規則 | **徵兵規則第三部及第四部 | 基本戰術ニハ ヨハン、フライ、ヘルン、フオン、ワルト、ステツチン、ノ戰術 野外勤務ニハ軍隊野外勤務令第二部 | 關係アル兵器及射擊學 | 步兵獵兵及騎兵ノ工兵作業ニ關スル技術教育 | ルトヒウ井ヒ大尉輜重學温習* | 正式符合ヲ學ヒ又製圖學ノ了解ニ必要ナルヘキ戰況ノ畧圖ノ一班軍事地圖ノ讀方及地圖ト地形トノ比較並ニ地圖ニ從ヒ方向ノ確定 | 教練乘馬及輓馬射的軍隊勤務教育 | 實地演習ハ中隊教練ニ至ル獨立乘馬ノ術ヲ得ルニ至ル迄(中隊馬術)及繫駕一年志願兵ハ銃ノ使用及取扱ニ精通スヘシ輜重兵隊下士及同中隊附士官ノ勤務ニ關スル規則ヲ練習セシメ以テ軍隊勤務ニ耐ユルニ至ラシム一年志願兵ハ劍ノ使用ニ精達セサルヘカラス |
| 以テ信任スルニ耐ヘシム輜重兵中少尉ニ必要ナルヘキ文書ノ書方並ニ下士兵卒ノ勤務ニ關シ又豫備士官タルニ必要ナルヘキ文書ヲ學ハシム | 主要ナル規則 | 豫備士官ニ必要ナル編制規則ノ學修 | 墺國及ウンガルン帝國軍隊ノ編制ヲ學ハシム | 野外ノ軍隊殊ニ步兵師團編制ヲ學ハシム | 豫備兵及豫備士官ニ關スル規則ヲ學ハシム | 普通戰術ノ要領 三兵科使用ニ關スル簡易ナル原則 | 軍隊用兵器ヲ學修スルコト殊ニ輜重隊用兵器ニ關シテ | 輜重兵ノ兵舍內及行軍中作業ノ概畧 | 地形ノ區分及地物ノ名稱 | 參考書中ノ科目ハ輜重兵中少尉ニ實用スヘキモノニ限ルシ | | |
| 陛下ヘノ上書式 勤務上ノ通信ノ名稱 左ノ事項ハ精細ニ學習スルヲ要ス 軍隊條例(第九章) 勤務書及規則(第十章) 軍事事務章程(第十一、十二章) 草稿及公文書(第十三ヨリ十五及十九章) 下級官ノ淨書編纂 文書ノ送達(第二十三章及二十六章) | 徵兵職責及勤務義務ニ必要ナル墺國ウンガルン徵兵規則ノ原則 | 野外ニ於ケル輜重隊及豫備隊ノ編制規則ニ關スル適當ナル證明(見解ヲ廣クセス且腦力ヲ要スルモノハ避クヘシ) | 各兵科ノ軍隊後備、國民軍ノ編制、軍隊ノ大小戰術上及經理上ノ單位ニ關スル概則 | 軍隊中軍、軍團、師團、旅團ノ編制 右軍隊ノ隊形概則 步兵師團編制ノ一覽表 | 教育ノ目的ニ從フ | 戰術三兵科ノ使用法 服務章程第二部野外勤務及下ニ示シタル各事項 全部ヲ學ハシム 緒論第十六部第十五、十六條第十九部第四十六章 輜重兵中少尉ノ任務ニ必要ナルモノ 第十六部第一ヨリ十四條ニ至ル並第十四、十八、十九條第十七、十八、二十一部及附錄 單ニ必要ナル部分 第十九部第四十二ヨリ四十七條ニ至ル並ニ第四十七、四十九、六十條第二十及二十三部附錄(記號ヲ附シタルモノ) | 輜重兵隊用刀及銃ノ構造及使用法 他兵科ノ銃及劍ニ關スル事ハ輜重兵中少尉トシテ知ルヘキ必要アルモノ、ミ 墺國及ウンガルンノ野砲山砲材料ノ効力ニ關スルコトノ概畧 | 本編第一、二、三、四部ハ輜重兵ノ野外ニ於テ獨立工兵作業ヲナスニ必要ナルヘキ概畧ヲ修ムルニアリ | 技術教育ノ材料ハ務メテ實物的教育ヲ良トス構造等ハ必要ナシ | 教授ノ材料ハ務メテ實物的ナルヲ良トス寸法及構造ノ細部ハ必要ナシ | 特ニ一年志願兵ノ爲メ規定サレタル參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | 特ニ一年志願兵ノ爲メ參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | 教育ノタメ規定サルヘキ參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 |
| 報告、通報、口供、命令等ヲ作ルニ習ハシメンタメナリ 右ノ目的ニヨリ其教授ハ唯ニ理論上ニ止マラス適當ナル筆記上ノ演習ヲナサシムヘシ | 特ニ一年志願兵ノ爲メ規定サレタル參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | **編纂中ナリ明細規定第一第二部ヲ補フ | | | | 特ニ一年志願兵ノタメ參考書ノ編纂セラルヽ迄 | 特ニ一年志願兵ノタメ參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | 技術教育ノ材料ハ務メテ實物的教育ヲ良トス構造等ハ必要ナシ | 教授ノ材料ハ務メテ實物的ナルヲ良トス寸法及構造ノ細部ハ必要ナシ | 特ニ一年志願兵ノ爲メ規定サルヘキ參考書ノ編纂セラルヽニ至ル迄 | | |
| 下士官ノ勤務上ニ必要ナル者ハ之ヲ學ハシムヘシ 右ノ如キ志願兵ニハ此語學ヲ修學スル爲メ務メテ多數ノ時間ヲ與フヘシ | | | | | | | | | | | | |

附錄第二

## 一年志願兵教育及勤務ニ關スル報告例

### 報告

輜重兵第何聯隊第何中隊

一年志願兵　何　某

右ハ何年何月日ヨリ何月日ニ至ルノ間前記ノ隊ニ於テ實地教育ヲ受ケタリ其成績左ノ如シ

一、言語、動作　何々

二、徒歩教練　何々

三、乘馬教練　何々

四、弩駕教練　何々

五、勤務　何々

六、何

成績以上ノ如ク良好（不良）ニシテ志操確實ニシテ（不適任）ト確認セリ依テ此段及報告候也

月　日

輜重兵第何聯隊中隊長　姓　名

何砲兵旅團長姓名殿

備考トシテ各科目ノ點數表ヲ添付スル此報告ノ經過スル輜重兵隊長ハ報告點數ノ適否ニ就テ意見ヲ附ス

附錄第三

# 第何砲兵旅團司令部

軍隊教育第七部參照

志願兵ノ

| 所屬隊號 | 官名 | 姓名 | 原籍 國名 | 原籍 町村 | 勤務年月 | 素習 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | | | |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 7 | | | | | | |

注意

一、志願兵ハ輜重兵聯隊番號ノ順序ニヨリ且階級的ナルヘシ

a 第一ケ年目ノ志願兵

b 第三十一章ニ記シタル志願兵

c 第二十七章ニ記シタル志願兵

試驗成績表編製ニ關スル

# 年志願兵ノ操行學科試驗成績表

| 備考 | 試驗ノ成績 優等 | 試驗ノ成績 並等 | 試驗ノ成績 劣等 | 平均點 | 科目 實地演習 | 科目 服務章程（第一、第二部） | 科目 操典 | 科目 輜重兵規則 | 科目 馬學 | 科目 輜重兵裝備 | 科目 戰時軍隊ノ給養 | 科目 會計經理勤務 | 科目 軍制學 | 科目 戰術及野外勤務（服務章程第一部） | 科目 兵器學及射擊 | 科目 地形學及地形製圖 | 科目 技術敎育 | 科目 軍事文書式 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

某何員委驗試

第三章ニ記シタル能ハサル者モ第二十八欄ニ之ヲ記入スヘシ

備考欄ニハ試官試驗ノ成績ヲ記入スヘシ

## 豫備士官任命ニ關スル證明規定

第一、生計及職業ノ證明ハ行政廳ニ於テスヘシ

第二、所得ノ證明ハ所有ノ動產、不動產及俸給其他ノ所得ヲ合計スヘシ且規定ノ自筆證明書ヲ附スヘシ

第三、自己ノ負債ニアラサルモ連帶責任ノ負債アルトキハ之ヲ返却スルコトヲ得ヘキ行政廳ノ證明ヲ要ス

第四、定規ノ服裝武裝及必要書籍ヲ備フヘキ證書ハ任官スヘキ年ノ九月二十日マテニ砲兵旅團司令部ニ出スヘシ

自筆證明ノ例

證

及書籍ハ必ス購備シ申候仍而此段自筆證明候也

年　月　日

右調査ヲ遂ケ本文ノ確實ナルコトヲ證明候也

廳長官　姓　名

、、、

附錄第五

第何師團

司令部

軍隊教育第七部參照

# 豫備士官試驗ニ及第セシ重兵一年志願兵及下士ノ及第名簿

| 番號 | 所屬聯隊名 | 駐地 | 官名 | 姓名 | 入營年月日 | 生國 | 性質 | 將來豫備ニ用ユル見込 | 生年月日 | 所得證明書又ハ文官ノ所轄 | 語學 | 試驗成績 | 平均點數 | 豫備士官候補生ノ上席 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 輜重兵第何聯隊 | テレシエンスクアト | 第一年現役軍曹 | 何某 | 千八百九十年 | ベーメン國ボーデンバ | 強固 | 是 | 採用 | 採用 | 獨語ハ勤務ニ足ルヘシ「ベニミュ」ハ完全 | 優等 | 五十二 | 是 | |
| 2 | 仝 | メランカシャウ | 仝上等 | 何某 | 仝 | ホルアルベルビ國ボレゲン | 仝 | 是 | 未定 | 未定 | 獨語ハ仝上伊太利語ハ不可 | 並等 | 三十九 | 非 | 申請ハ第十二欄內ニヨル |
| 3 | 仝 | ウンガルシュ | 仝上等 | 某 | 千八百八十七年 | 墺國カシャウ | 仝 | 是 | 欠 | 行政廳ノ證明書不足却下 | 獨語（ウンガルシュ）ハ可 | 並等 | 三十七 | 是 | |
| 4 | 仝 | ウーイン | 第二年現役一年志願兵曹長 | 某 | 千八百八十八年 | 下墺國ウーイン | 固ス | 非 | 不採用 | 不採用 | 獨語可 | 並等 | 三十八 | 非 | 申請ハ第十及第十二欄內ニヨル |

試驗委員何某

第八ヨリ十二欄ニ至ル又十六及十七欄ハ砲兵旅團司令部ニ於テ記入セリ

月日　姓名

名簿ノ記入ニ關スル注意ハ次ノ如シ

第一　第一ヨリ第七及第十三ヨリ第十五ニ至ル欄ハ試驗委員ニ於テ記入ス（第八ヨリ十二及十六或ハ十七欄ハ砲兵旅團司令部ニ於テ記入ス（第三十六章））

第二　第十三欄語學ハ第百六ノ規定ニ從ヒテ記入ス（ビヨ語ハ次ノ三項トス）

第三　第十及十六欄ハ唯是又ハ非ト書スヘシ第十六欄ニ於テ非ト認メラレタルトキノ場合ニハ第三部第百七ノ規定ニ從フ

第四　階キ直シヲナスヲ許サス

# 豫備士官試驗ニ及第セシ輜重兵一年志願兵及下士ノ及第名簿

| 號 | 所屬 | 官名 | 姓名 | 入營年月日 | 生國 | 性質 | 將校ノ豫備ニ用ユルヤ | 所得ノ證書又ハ所屬ノ上官ノ證明 | 生計 | 平素ノ操行 | 試驗成績 | 學科 | 語學 | 豫備士官ノ候補生タルヘキ者ハ其ノ旨 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 1 | 輜重兵第何聯隊 | 第一年現役兵 | テレシエンスクアト | 何某 | 千八百九十年 | ベーメン國ボーデンバ | 是 | 強固 | 是 | 採用 | 採用 | 優等 | 五十二 | 是 | |
| 2 | 仝上 | 仝上 | メランカシヤウ | 何某 | 仝上 | ホルアルベルヒ國ボルゲノ | 是 | 定見アリ | 是 | 未定 | 未定 | 並等 | 三十九 | 非 | 申請ハ第十二欄内ニヨル |
| 3 | 仝上 | 第二年現役一年志願兵曹長 | ウンガルンウサン | 何某 | 千八百八十七年 | ウンガルン國下ウイン | 是 | 明瞭ナラス | 非 | 不採用 | 不採用 | 並等 | 三十七 | 非 | 申請ハ第十及第十二欄ニヨル |
| 4 | 仝上 | 仝上 | 某 | 何某 | 千八百八十八年 | 埃國 | | | | | | | 三十八 | | |

試驗委員何某

軍隊教育第七部參照

第八ヨリ十二欄ニ至ル又十六及十七欄ハ砲兵旅團司令部ニ於テ記入セリ

月日　姓名

名簿ノ記入ニ關スル注意ハ次ノ如シ

第一　第一ヨリ第七及第十三ヨリ第十五ニ至ル欄ハ試驗委員ニ於テ記入ス

第八ヨリ十二及十六或ハ十七欄ハ砲兵旅團司令部ニ於テ記入ス（第三十六章）

第二　第十三欄語學ノ第百六ノ規定ニ從ヒテ記入スヘシ（第三項トス）

第三　第十及十六欄ハ唯是又ハ非ト書スヘシ

第十六欄ニ於テ非ト認メラレタルトキノ場合ニハ第三部第百七ノ規定ニ從フ

第四　醫キ直シヲナスヲ許サス

| 年度 | 発行額 | 償還額 | 現在額 |
|---|---|---|---|
| 明治二十年 | | | |
| 二十一年 | | | |
| 二十二年 | | | |
| 二十三年 | | | |
| 二十四年 | | | |
| 二十五年 | | | |
| 二十六年 | | | |
| 二十七年 | | | |
| 二十八年 | | | |
| 二十九年 | | | |
| 三十年 | | | |
| 三十一年 | | | |
| 三十二年 | | | |
| 三十三年 | | | |
| 三十四年 | | | |
| 三十五年 | | | |
| 三十六年 | | | |
| 三十七年 | | | |
| 三十八年 | | | |
| 三十九年 | | | |
| 四十年 | | | |
| 四十一年 | | | |
| 四十二年 | | | |
| 四十三年 | | | |
| 四十四年 | | | |
| 四十五年 | | | |
| 大正元年 | | | |
| 二年 | | | |
| 三年 | | | |
| 四年 | | | |
| 五年 | | | |
| 六年 | | | |
| 七年 | | | |
| 八年 | | | |
| 九年 | | | |
| 十年 | | | |
| 十一年 | | | |
| 十二年 | | | |
| 十三年 | | | |
| 十四年 | | | |
| 十五年 | | | |
| 昭和元年 | | | |
| 二年 | | | |
| 三年 | | | |
| 四年 | | | |
| 五年 | | | |
| 六年 | | | |
| 七年 | | | |
| 八年 | | | |
| 九年 | | | |
| 十年 | | | |
| 十一年 | | | |
| 十二年 | | | |
| 十三年 | | | |
| 十四年 | | | |
| 十五年 | | | |
| 十六年 | | | |
| 十七年 | | | |
| 十八年 | | | |
| 十九年 | | | |
| 

第二章第七節參照

附　輜重兵第何聯隊

輜重兵大尉某

[illegible]

| 別 | 級 | 名 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一班 | 中尉 | 何某 | 一 | 、 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 同 | 何某 | 一 | 、 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 同 | 何某 | 一 | 、 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 少尉 | 何某 | 一 | 、 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 二班 | 少尉 | 何某 | 、 | 一 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 同 | 何某 | 、 | 一 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 同 | 何某 | 、 | 一 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 見習士官 | 何某 | 、 | 一 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | 同 | 何某 | 、 | 一 | 一 | [illegible] | [illegible] | 一 | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

（第一）第五第六ノ問題ハ兩班共ニ五月七日六月一日野外ニ於テ答解セリ

（第二）中尉何某ハ一月一日ヨリ同二十八日ニ至ル迄休暇ヲ得タリ

明治三十二年三月廿五日印刷
明治三十二年三月廿七日發行

陸軍省

印刷者　東京市京橋區五郎兵衛町二十一番地
　　小林又七

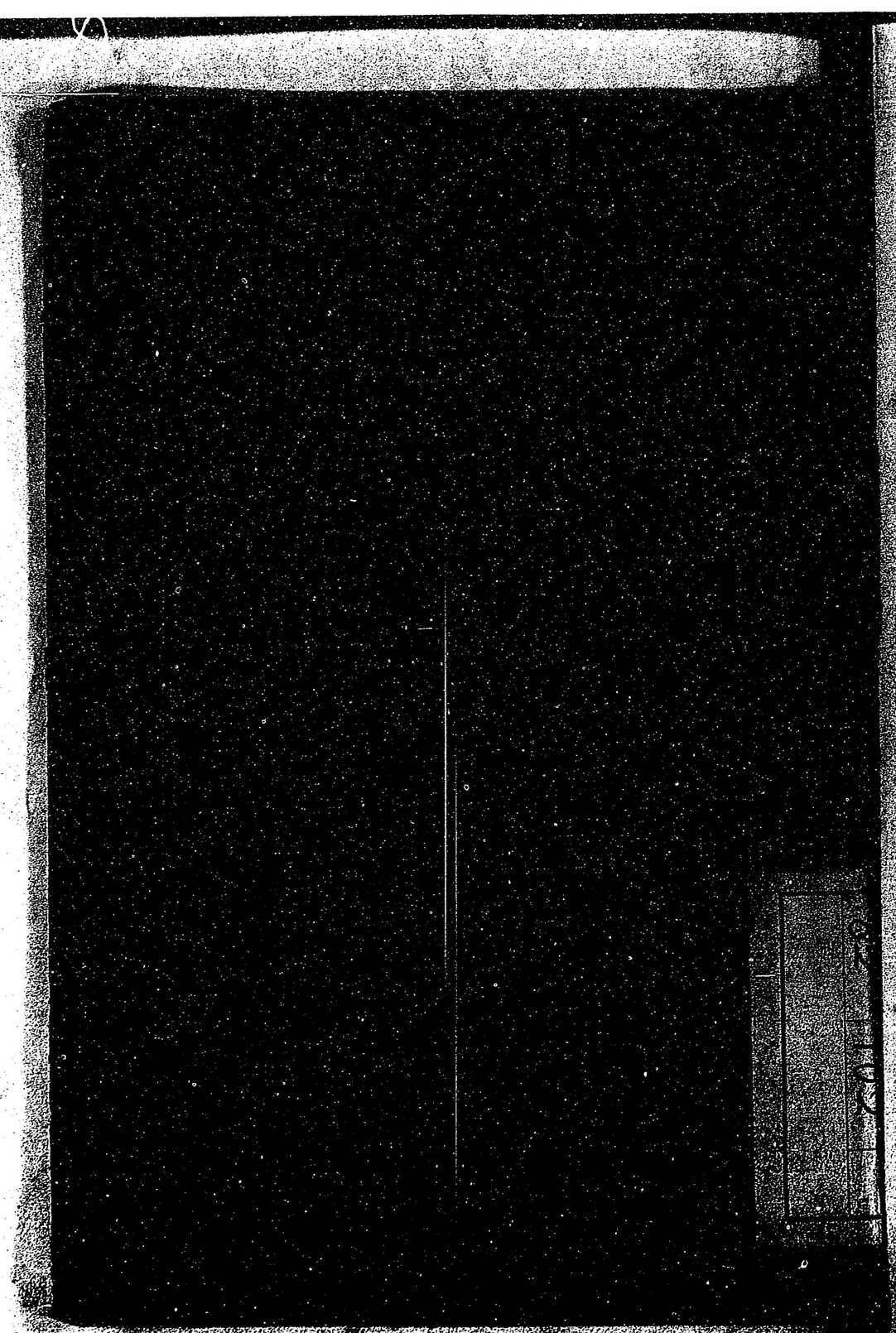
印刷所　陸軍省御構内
　　小林出張所

051352-000-7

82-102

M32

BFB-0044



82
102

NO 102